
遊戯王 G X ～紅蓮の魂～

サティスファクション

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX（紅蓮の魂）

【Nコード】

N1363Y

【作者名】

サテイスファクション

【あらすじ】

遊戯王GXの小説です。主人公の高橋 秀たかはし しゅうはなんやかんやで死んでしまう。果たして転生先のGXの世界でやっていけるのか？

第1話 始まりはいつも突然（前書き）

初めてサティスファクションです。色々あると思いますがよろしくお願いします。

第1話 始まりはいつも突然

俺の名前は高橋 秀（たかはし しゅう）、記念すべき高校生活最初の朝、要するに始業式の日、自転車で学校に向かった。

そう、普通に向かっていただけだった。何も変わらない。横からトラックが飛び出してくる事以外は。

秀「あれ？もしかしてやばいんじゃない？」「これが最後のセリフだったと思う。」

そこから先は覚えてない。おそらくトラックにやられたはずだし、なぜか意識ははつきりしている。

秀「なぜだ？」

??「ワシが呼び出したからじゃ。」

目を開けると真っ暗な空間におじいさんが立っていた。

秀「……………誰？」

??「……………リアクション薄いな。もうちょっと反応してくれよ。まったく。だからトラックにやられるんじゃないよこの間抜け野郎」

……………訂正、白髪頭のクソジジイが立っていた。

??「おぬし、今失礼な事思ってたか？」

秀「そんな事思ってたねーよ」

??「そうか。そうだな。クソジジイなんていうわけないよな

「神様に向かってそんな事言うわけねーよな。」

秀（野郎オ…心読めてんじゃねえか…って今こいつなんて？神？）
神「そう。神様じゃ。」

秀「それでその神様が何だ？なんか用か？」

神「そうそう。おぬし、人生やり直さないか？」

………ハイ？

秀「ちよつと待て。俺は「死んだ」………ゑ？死んだ？」神「だから死んだって。でも死に方がかわいそうだったじゃん。だからチャンスを上に来たのじゃ。」

まああれで生きてたらずげーけど。でも少しは希望持たたいじゃん。

秀「でも具体的にチャンスって？」

神「転生じゃよ転生よく知つとるじゃろ。」

秀「転生って例えば…」

そういつてポケットの携帯を取り出し、

秀「これとか？」

と言い『小説家になろう』のサイトを見せた。

秀「小説とかだとありきたりな事だな。転生って」

神「まあ言っな。ということで遊戯王GXの世界に行ってもらおう。」

しかしGXか。それは良いが問題は一つある。
秀「なあ」

神「なんじゃ。別にバイオハザードとかでもいいぞ。」

秀「いや、バイオはグロいから。そーじゃなくて元の世界に生き返らせてくれねーのか。」

神「諸事情で無理」

おい、諸事情って何だ諸事情って。

神「まあとりあえず行つてこい。実技からだから遅れないようにな。」

大丈夫だつての、まあとりあえず。一言。

秀「GXの世界へ行つてQ〜〜！」

そして気がつく公園にいた。でもアレ？一つ思ったことだけど

会場何処だよ。

第1話 始まりはいつも突然（後書き）

第1話初めてですのでうまく行かないので不安定ですがよろしくお
願いします。

第2話 古代の機械巨人ってなんやかんやで召喚条件を無視して特殊召喚されて
第2話です。やっと出来ました。主人公のデッキが分かります。

一部修正しました。

第2話 古代の機械巨人ってなんやかんやで召喚条件を無視して特殊召喚されて

秀「ゼーハーゼー、ふう、やっと着いた。」

小説が始まってさっそく、なぜこんなに息を切らしているか、それは少し時間を戻して説明しよう。

今から30分ぐらい前、神様によってGXの世界に飛ばされた俺は公園にいた。正確には公園のベンチに座っていた。

秀「本当に……本当に来たのか？」

左手を見るとデュエルディスク。おもちゃじゃない。アニメで見る正真正銘、本物のディスクだ。

秀「す、す、すっげええ〜」

周りの人はひいていたがそんなの関係無え。こいつからモンスターが実体化するだぜ？現実だと技術的に無理だったが、まさに人類の集いし夢の結晶があるんだぜ？テンションが上がらない方がおかしい。シンクロ召喚の口上を言った気がするがそれも気にしない。こいつでさっそくデュエルしてみたい。

そう思ってディスクを見たが、デッキがセットされてない。

かばんを背負っていたの中を見るとすぐ見つかった。変な紙と一緒に。

秀「なんだこれ？」

受験番号103番。そう書いてあった。

秀「……………そういえば今日、実技の日じゃね？」

神様も確かそう言っていた。

紙には『実技開始時間10時00から』と書いてあった。公園の時計を見る。10時05分。

秀「……………遅刻じゃねかあああ!!」

そう言つて公園を飛び出し、会場に全速力で走った。そして途中会場の場所が分からないので、道を聞いたりして走った。そして現在に至る。

受付の人に受験票を見せ、会場に何とか入れてもらえた。ギリギリ間に合ったところだ。会場ではデュエルをしていて、クロノスがちょうどやられていたとこだった。なんてこった。十代のデュエルを見過ごしてしまうとは。

『受験番号103番、至急、デュエルリングに来て下さい。』

お、俺か。このまま受けさせてもらえないかと思ったぜ。相手は誰だろう？行けば分かるか。

デュエルリングに行くとおかつぱあた…いや、クロノスがいた。

ク「ボンジョ〜〜ルノ。ワタ〜クシこそ、デュエル実技最高責任者デア〜ル、クロノス・デ・メディチナノ〜〜ネ。」

秀「高橋 秀です。よろしくお願いします。」

ク「よろしい。それで〜は、さつそく実技試験を始めるノ〜ネ（ドロップアウトボ〜イにやられるなん〜て、それだけでイライ〜ラしてるノ〜ニ、こうなつタ〜ラ、憂さ晴らしにしてやるノ〜ネ。）」

うわぁ、明らかに何か企んでいる顔してるよ。

「「決闘!!」」

クロノス 手札5枚 LP4000

秀 手札5枚 LP4000

ク「ワタ〜クシのターン、ドローニヨ。」

クロノス 手札5枚↓6枚

ク「古代の機械兵士アンティーク・ギアソルジャーを守備表示で召カ〜ン。」

銃を右手に装着したロボットが現れた。

古代の機械兵士アンティーク・ギアソルジャー

効果モンスター

星4/地属性/機械族/攻1300/守1300

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

すっげー。もんすたあが実体化した。（昔の闇遊戯風）

「カードを一枚伏せて、ターンエンドナノ〜ネ。」

クロノス 手札4枚 LP4000

場 古代の機械兵士アンティーク・ギアソルジャー 守1300 伏せカード一枚

秀 手札5枚 LP4000

様子見てところか。そういえばこのデッキが何デッキか確認してなかったよな。エキストラデッキ数多いけど。あ、今はまだ融合デッキか。

秀「俺のターン、ドロー！」

手札5枚↓手札6枚

………え？この手札、まさか、このデッキは…

ク「どうしたノ〜ネ、早くターンを進めるノ〜ネ。」

秀「あ、すみません。モンスターとカードを二枚伏せてターンエンド。」

クロノス 手札4枚 LP4000

場 古代の機械兵士 アンティーク・ギアソルジャー 守1300 伏せカード一枚

秀 手札3枚 LP4000

場 裏守備表示モンスター×1 伏せカード二枚

ク「フフン。それだけデス〜カ。ワ〜タクシのターン、ドロ〜。」

手札4枚↓手札5枚

ク「古代の機械兵士 アンティーク・ギアソルジャー を生贄に古代の機械獣を召カ〜ン。」 アンティーク・ギアビースト

犬みたいなロボット、AIBOみたいなのが出てきた。AIBOみたいに可愛くね〜けど。

アンティーク・ギアビースト
古代の機械獣

効果モンスター

星6/地属性/機械族/攻2000/守2000

このカードは特殊召喚できない。このカードが戦闘によって破壊した相手効果モンスターの効果は無効化される。

このカードが攻撃する場合、

相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

ク「バトル！古代の機械獣でセットモンスターを攻撃！プレシャスファンゲ！」

アンティーク・ギアビースト
古代の機械獣がものすごい勢いで迫って来た。

秀「セットモンスターはダーク・リゾネーターです。」

ダーク・リゾネーター

チューナー（効果モンスター）

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1300 / 守 300

このカードは1ターンに1度だけ、戦闘では破壊されない。

アンティーク・ギアビースト
古代の機械獣 攻2000

VS

ダーク・リゾネーター 守 300

ク「……なぜ守備力の低いそのモンスターは破壊されないノ？ネ？」

秀「ダーク・リゾネーターは1ターンに1度だけ、戦闘では破壊されないんですよ。クロノス先生。」

ク「なんでス？ト！？」

生A「何だあのモンスターは？」

生B「見た事ないぜ。」

外野が騒ぎ出した。そりゃそうだ。本来なら未来のカードだからだ。

ク「ムムム、ターンエンドナノ」ネ。」

クロノス 手札4枚 LP4000

場 古代の機械獣攻2000 アンティーク・ギアピースト 伏せカード一枚

秀 手札3枚 LP4000

場 ダーク・リゾネーター守 300 伏せカード二枚

秀「俺のターン!!」

手札3枚↓手札4枚

よし、この手札なら、いける!

秀「手札からランス・リンドブルムを攻撃表示で召喚!」

槍を持った竜が現れた。

ランス・リンドブルム

効果モンスター

星4/風属性/ドラゴン族/攻1800/守1200

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

ク「プレイングミスデスゝカ？そのモンスターでは我が古代の機械
獣には勝てませんゝノ。」
アンティーク・ギ
アビースト

秀「確かにそうですが、プレイングミスではありませんよ。」

ク「ニヨ？」

秀「行きますよ、先生。レベル4ランス・リンドブルムのレベル3
ダーク・リゾネーターをチューニング！」

ダーク・リゾネーターが音叉を鳴らすと、光り出し、三つの輪とな
った。その三つの輪は直列し、ランス・リンドブルムを包み込む。

包み込まれたランス・リンドブルムも光り出し、四つの光の球とな
った。

ク「な、なんなノゝネ。」

秀「紅蓮の炎が渦を巻く。勝利の鉄槌よ。大地を砕け！」

4 + 3 = 7

三つの輪と四つの光の球は眩しく光り出し、光が止んだ時には、背
中がやけに丸い、ゴツゴツしたドラゴンがいた。

秀「シンクロ召喚！羽ばたけ、エクスプロード・ウイング・ドラゴ
ン！」

エクスプロード・ウイング・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星7/闇属性/ドラゴン族/攻2400/守1600

チューナー+チューナー以外のドラゴン族モンスター1体以上

このカードの攻撃力以下の攻撃力を持つ、フィールド上に表側表示で存在する

モンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊し、

破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える事ができる。

生A「何なんだあれは？」

生B「融合でも儀式でもないだ！」

あーあ、勢いでシンクロ召喚したけどどうしよう。どう説明したらいいんだ？

ク「シンクロ召喚……なんなノ〜ネ、ソレ〜ハ。説明するノ〜ネ！」

う〜む、こうなったらヤケクソだ。

秀「シンクロ召喚とは新たな召喚方法。基本的にチューナーとそれ以外のフィールド上のモンスターを墓地に送り、そのレベルの合計のシンクロモンスターをエクス……じゃなくて融合デッキから特殊召喚する召喚方法の事です。」

ざっとこんなもんだろ。

ク「とりあえず分かったノ〜ネ。」

何とか分かってくれたそうだ。

秀「ではバトル！エクспロード・ウイング・ドラゴンで古代の機械獣を攻撃！ええ〜っと、フレイムストーム！」
アンティーク・ギアビースト

エクспロード・ウイング・ドラゴンは古代の機械獣に炎の渦を放った。
アンティーク・ギアビースト

エクспロード・ウイング・ドラゴン 攻2400

VS

古代の機械獣攻2000
アンティーク・ギアビースト

ク「しかし、それでも400ポイントしかダメージを受けないからね。」

秀「エクспロード・ウイング・ドラゴンの効果発動！「何い。」
エクспロード・ウイング・ドラゴンの攻撃力以下の攻撃力を持つ、フィールド上に表側表示で存在するモンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊し、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える事ができます。よって、古代の機械獣を破壊し、2000ポイントのダメージを受けてもらいます。」

クロノス LP4000 ↓LP2000

ク「我が古代の機械獣が〜。」
アンティーク・ギアビースト

秀「ターンエンド。」

クロノス 手札4枚 LP2000

場 モンスター無し 伏せカード一枚

秀 手札3枚 LP4000

場 エクスプロード・ウィング・ドラゴン 伏せカード二枚

クロノスのLPを大きく削った。このまま行けるか？

ク「ワ、ワタクシのターン、ドロー!!」

手札4枚↓手札5枚

ク「フフン、ついに来たノ〜ネ。」

！ まさか、アレか！

ク「手札からトロイホースを攻撃表示で召カ〜ン。」

トロイホース

効果モンスター

星4/地属性/獣族/攻1600/守1200

地属性モンスターを生け贄召喚する場合、

このモンスター1体で2体分の生け贄とする事ができる。

ク「さらに、魔法カード、デュアルサモン二重召喚を発ド〜。」

デュアルサモン
二重召喚

通常魔法

このターン自分は通常召喚を2回まで行う事ができる。

ク「このカードの効果にヨリ、ワタクシはこのターン、通常召喚をもう一度行う事ができる」ヨ。」

やっぱり。

ク「トロイホースを生け贄にして、いでよ、古代の機械巨人！」
アンティーク・ギアゴーレム

アンティーク・ギアゴーレム
古代の機械巨人

効果モンスター

星8 / 地属性 / 機械族 / 攻3000 / 守3000

このカードは特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、

相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

……ほらな。じゃねええええええ、やべーよ、マジでやべーよ、切り札来ちゃったよ。

生A「あの受験生終わったな。」

生B「さて帰るか。」

おい、聞こえてるって。後、生徒B、見るなら最後まで見ろっての。

ク「バトルナノネ。古代の機械巨人アンティーク・ギアゴーレムで攻撃！アルティメットパウンドー！」

アンティーク・ギアゴレム
古代の機械巨人攻3000

VS

エクスプロード・ウイング・ドラゴン 攻2400

秀 LP4000 ↓ LP3400

秀「ぐつ。」

こんなに早くエクスプロード・ウイング・ドラゴンがやられるとは。

ク「カードを一枚伏せてターンエンドナノネ。」

クロノス 手札1枚 LP2000

場 古代の機械巨人攻3000
アンティーク・ギアゴレム
伏せカード二枚

秀 手札3枚 LP3400

場 伏せカード二枚

秀「俺のターン！ドロー！！！」

手札3枚 ↓ 手札4枚

「……………くつ。モンスターを伏せてターンエンド。」

クロノス 手札1枚 LP2000

場 古代の機械巨人攻3000 伏せカード二枚

秀 手札3枚 LP3400

場 裏守備表示モンスター×1 伏せカード二枚

このままじゃまずい。伏せカードもブラフに近い。クロノスが召喚出来るモンスターを次のターン出すと……まずい。

ク「フフン、ワタクシのターン、ドロー！」

クロノス 手札1枚↓手札2枚

ク「……バトル！」

セーラーフ！助かったぜ。でも、やばい。

ク「古代の機械巨人でセットモンスターを攻撃！」

秀「セットモンスターはクリッターだ！」

クリッター

効果モンスター（制限カード）

星3/闇属性/悪魔族/攻1000/守600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

古代の機械巨人攻3000

アンティーク・ギアゴレム

V S

クリッター 守600

秀 LP3400 ↓ LP1000

秀「ぐおお！だがクリッターの効果発動！デッキから攻撃力1500以下のモンスター、フレア・リゾネーターを手札に加える。」

フレア・リゾネーター

チューナー（効果モンスター）

星3 / 炎属性 / 悪魔族 / 攻 300 / 守1300

このカードをシンクロ素材とした

シンクロモンスターの攻撃力は300ポイントアップする。

ク「フン、次のターンでとどめを刺してやるノ〜ネ。カードを一枚伏せてターンエンド。」

クロノス 手札1枚 LP2000

場 古代の機械巨人攻3000 アンティーク・ギアゴレム 伏せカード三枚

秀 手札4枚 LP3400

場 伏せカード二枚

ク（ワタクシの伏せたカードは融合、炸裂装甲、聖なるバリア・ミラーフォース・ナノ〜ネ。）

聖なるバリア・ミラーフォース・

通常罨（制限カード）

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

リアクティブアーマー

炸裂装甲

通常罨

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

その攻撃モンスター1体を破壊する。

融合

融合

通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた

融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

ク（どんな強力モンスターが来ても無駄ナノネ。）

くつまずい。このままだと負けちまう。後一枚、アレさえ来れば。デッキトップに手乗せる。引けるのか？あのカードを。

ク「どうしたノネ。早くドローするノネ。なんならサレンダーしてもいいノネ。」

秀「！？……おい、今なんて言った？」

ク「えっ、だから、サレンダーしてもいい「ふざけるじゃねーよ」！？」

秀「そんな事はしねーよ。おかっぱ野郎。」

ク「おかっぱ……!？」

秀「覚悟しろよ。このターンで決めてやる。」

引いてみせる、逆転のカードを。

秀「俺の、ター……ン……!……!」

手札4枚↓手札5枚

秀「……………っふ。」

ク「ニヨ?」

秀「引いたぜ、逆転のカードを。」

ク「ハ、ハッタリは止めるノ〜ネ。」

秀「ハッタリかどうか、見せてやるぜ。相手フィールド上のみにモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。来い、バイス・ドラゴン!」

全体的にゴツゴツしてるドラゴンが現れた。

バイス・ドラゴン

効果モンスター

星5 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻2000 / 守2400

相手フィールド上にモンスターが存在し、
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、
このカードは手札から特殊召喚する事ができる。
この効果で特殊召喚したこのカードの元々の攻撃力・守備力は半
分になる。

秀「さらに、フレア・リゾネーターを召喚！」

音叉を持ち、炎を纏った悪魔が現れた。

秀「さあ、行くぜ、レベル5のバイス・ドラゴンに、レベル3のフ
レア・リゾネーターをチューニング！」

さつき同様に、フレア・リゾネーターが音叉を鳴らし、三つの輪と
なる。バイス・ドラゴンは五つの光の球になり三つの輪に囲まれる。

5 + 3 = 8

秀「紅蓮の炎 今ここに列を成す。天地鳴動の力を見るがいい！
シンクロ召喚！燃え上がる魂！レッド・デーモンズ・ドラゴン！」

現れたのは禍々しい姿をした真紅の竜。このデッキの切り札だ。

レッド・デーモンズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻
撃した場合、

ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを

全て破壊する。

このカードが自分のエンドフェイズ時に表側表示で存在する場合、このターン攻撃宣言をしていない自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

秀「さらにフレア・リゾネーターをシンクロ素材にして召喚したレッド・デーモンズ・ドラゴンは攻撃力は300ポイントアップする。よって攻撃力は」

レッド・デーモンズ・ドラゴン攻3000↓攻3300

ク「攻撃力3300！？（しかし伏せカードを使えば……）」

秀「さらに手札から魔法カード、クリムゾンヘルセキユアを発動オ
！」

クリムゾン・ヘル・セキユア

通常魔法

自分フィールド上に「レッド・デーモンズ・ドラゴン」が表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

秀「このカードの効果により相手フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。消し飛ばし！」

ク「マ、マンマミィヤ〜。」

秀「これで伏せカードに警戒せず済む。」

っ！かミラフオって。恐ろしいな、おい。

秀「バトルだ！レッド・デーモンズ・ドラゴンで古代の機械巨人に
攻撃！アブソリュート・パワフオース！！」
アンティーク・ギアゴーレム

レッド・デーモンズ・ドラゴン攻3300

VS

古代の機械巨人
アンティーク・ギアゴーレム

クロノス LP2000 ↓ LP1700

ク「ぐぬぬ、しかしワタクシのライフはまだ残ってるノネ。

このターンで決めると言っていたわりニハ、大したこと無いノネ。
」

秀「何勘違いしてるんだ？まだ俺のバトルフェイズは終了してない
ぜ。リバースカードオープン！リビングデッドの呼び声！墓地から
バイス・ドラゴンを蘇生！」ク「何い！」

リビングデッドの呼び声
よこえ

永続罠（準制限カード）

自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。
このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスター
を破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

秀「とどめだ！バイス・ドラゴンでダイレクトアタック。バイス・

ストリーム！！（技名は今思いついた。）「ク」ペペロンチ〜ノ〜。
「

クロノス LP1700↓LP-300

勝った？勝ったのか？クロノスのライフは0。つまり……

秀「よっしゃああああ！勝ったああああ！」

会場にもすごい響いた。

ク「あ、ありえない〜ノ、このワタクシ〜が、受験生に二度敗れるな〜デ。」

呆然としてるよクロノスの奴。ま、ドンマイ？。いいことあるぞ。
よし、試験も終わったし帰るか。

そして俺は帰路についた。

第2話 古代の機械巨人ってなんやかんやで召喚条件を無視して特殊召喚されて

第2話終了です。いやはや、色々おかしいですが、よろしくお願ひします。

第3話 夜の学校はおっかない（前書き）

第2話です。キャラの口調がおかしいかもしれません。

第3話 夜の学校はおっかない

） ?????？ SIDE ）

デュエルアカデミア。それはデュエリスト育成の専門学校。プロのデュエリストはもちろん、カードデザイナーなどデュエルモンスターズに携わる職業に就く者は全てここに来てると言っても過言ではない。そのデュエリストの聖地に向かう船の中、ある一人の男がいた。そう、俺こそ、この小説の主人公（？）、高橋 秀！そして、今俺は…………

秀「オロロロオオオ…」

………… 船に酔っていた。

秀「うぷっ、気持ち悪い…。 何で船なんだコンチキショー、おい、テメー、何で船はゆるゆる揺れるんだよ。」

生A「えっ、さっ、さあ？」

秀「俺が知るかボケがあ！」

生A「ええっ！」

完全に八つ当たりだ。チキショー、酔い止め持ってくればよかった。船内に居るのもキツイので、甲板に出ることにした。

甲板に出ると気が少し落ち着いた。よく見ると俺以外にも甲板に何人かいた。イエローよりレッドのの方が結構多い。まあ、俺もレッドだが。当然だ、筆記も実技もギリギリだしな。

??「なあ、そこのお前。」

秀「ん、何だ？」

後ろから呼ばれたので振り返る。

??「なあ、お前だろ？すっげえモンスター召喚したの。」

そこには遊戯王GXの主人公、ずっとデステイニードローの使い手、
遊城 十代がいた。

秀「ああ、確かにそうだが、お前は？」

知っているが敢えて知らないフリをする。

十「ああ、俺は遊城 十代。」

秀「高橋 秀だ。よろしく。」

十「よろしくなっ、秀。なあ、早く見せてくれよ。」

秀「デュエルしろ、って事か？」

十「おっ、分かってるじゃねーか。やろっぜ。」

秀「ん、断る。悪いな。ちょっと気分悪くて。」

十「ちえっ、デュエルしたかったのになー。」

??1「アニキー！」

??2「ここにいたか。」

ん、また誰か来た。約二名。

十「ん、おっ翔に——。」

秀「!？」

十代、今なんて？そう、まるで霞がかかった感じで聞き取れなかった。

冗談です。彼の名は三沢 大地。あまりにも出番が少ししかないなので空気と呼ばれたりする悲しき宿命を背負った男。しかし、まだ輝いていた時からインビジブル状態か。ある意味心配だ。

その後、しばらく三人、いや、四人で雑談をしていた。シンクロについて三沢にしつこく聞かれたが、ある程度しか答えなかった。聞かれなかったけど、入手方法を聞かれたときどうしよう。

しばらくして船は港に着いた。やったぜ。俺は船の呪縛から解放さ

れた。

鮫「——そして私の話を終わります。」

鮫島校長のスピーチの呪縛があつた。

ふっ、倒れていいかな？

30分後、入学式も終わり、屍に近い俺は十代と翔と共にレッド寮に向かつていた。

翔「大丈夫ツスか？」

秀「な、なんとか。入学式からこれとは。恐るべし、デュエルアカデミア。」

翔「いや、関係無いツスよ?。」

秀「それにしても遠いな。レッド寮。聞いた話だと歩いて20分か。」

十「まっ、いいじゃねえか。行こうぜ。」

ちよつとM A T T E。置いてかないで！

十「ここがレッド寮か。」

翔「ボロいつすね。」

秀「まあ、確かに。」

各々感想を述べる。レッドだからってこれはひどくね？

十「すめば都と言っし、いいじゃねえか。」

前向きだな、十代。

秀「とりあえず部屋に行こうぜ。」

十「それもそうだな。」

翔と十代は相部屋。そして俺は一番奥の部屋だそうだ。元々物置だったからか、広さは三畳半、窓が一つ、そして横に布団と机が置いてあるだけの部屋だった。よく見ると後から増設したのだろう、台所も小さいがある。

75点。まあまあいいじゃねーか。疲れたのでとりあえず荷物を置き、歓迎会まで寝ることにした。

大「皆さんレッド寮へようこそ。私が寮長の大徳寺なのニャ。ではさっそく、新入生歓迎会を始めたいと思いますニャ。」

時間となり、食堂に集まった俺たち。しかし、ほとんどの人が絶望しただろう。他の寮に比べてひどい。何が？料理が。

フランスのフルコースの様な寮食が出るオベリスク。まあまあ普通の寮食のラー・イエロー。その二つの寮に対し、我がオシリス・レッドは、ご飯・みそ汁にメザシ。ついでに沢庵。中学生の給食並だ。個人的にはこのくらいで良いと思うけどな。

十「結構うめーぞ、これ。」

秀「って十代、先生の話の途中でもう食べてるし！」

翔「まずいッスよ。アニキ。」

十「そうか？まずくねーって。」

秀「いや、味じゃなくて。」

ものすごく先生こっち見てるって。

大「細かい事は気にしないニャ。それでは皆さん、これからよろし

くニヤ〜。」

歓迎会が終わり、部屋に戻るとさっそく荷物を開いた。ちなみに持ち物は

デッキ 一つ

替えの制服 三着

デッキじゃないカードの束 数十枚

その他生活用品

…。これぐらいだ。

後はデュエルディスクにPDAぐらいだ。

それにしてもこのデッキ…………死ぬ前使って奴に近い。と言っても、サイバードラゴンはバイス・ドラゴンに変わっていたり、シンクロモンスターもこんなに持ってなかった。転生のおまけか？あるはずないレッド・デーモンズ・ドラゴンがあるのは分らんが。何か意味があるのか？…………。

秀「ダメだ、わかんねー。」

考えても分からない。情報が少なすぎる。コナンばりの推理力もないし。考えても仕方ない。デッキ調整でもするか。

現在11時

秀「こんなもんか。」

デッキ調整は終わった。カードの束は全部未来のカードばかり。くず鉄先生もあった。しかしエキストラデッキは二枚白紙のカードだった。恐らくアレだ。何故白紙？

秀「まっ、いつか。とりあえず茶でも煎れるか。」

台所に向かった時、ドアをたたく音がした。

十「おーい、俺だ。開けてくれ。」

十代だ。こんな夜中に何のようだ？とりあえずドアを開ける。

十「おつ。これからデュエル場に行くんだけど来てくれないか？」

秀「いきなりだな、おい。どうしたんだ？」

十「デュエルに誘われたんだよ、お前も連れてこいって言ってきた

からさ、だから行こうぜ。」

秀「なるほど。分かった。準備するから待っていてくれ。」

そう言っでドアを閉める。確か万丈目との最初のデュエル。

秀「楽しみだ。」

そう言っで準備をした。

万「遅いぞ、貴様等。」

デュエル場に着いた俺、十代、翔。俺たちは万丈目にダメ出しされた。つか、出会っで早々、最初のセリフがそれかよ。

秀「仕方ねーじゃねーか。20分掛かるんだぜ、レッド寮から。」

万「ふん、まあいいだろう。さっそくデュエルしろ。103番。」

秀「ゑ、俺かよ。」

万丈目に指名された。そこは十代じゃねーのかよ。

ブルー生A「万丈目さん。」

万丈目「何だ。」

ブルー生A「俺にやらせてください。俺で充分です。」

万「それもそうだな。よし、行け。」

取り巻きA「かよおおお」

秀「ふざけんな。だれがテーマみてーな雑魚キャラAデュエルしなきゃいけねーんだ。」

ブルー生A「なんだと。」

翔「ちよつと秀君、言い方ひどいッス。」

十代「まーいいじゃねーか。デュエルしてやれよ。」

秀「ちつ、分かったよ。しょーがねー。そういえばお前、名前は？」

ブルー生A「俺の名前は取巻　太陽。」

そんな奴いたっけ？

「「決闘」」

取巻　LP4000

秀　LP4000

秀「お「俺のターン。ドロー。」……ちよつと待て！」

取「何だ。」

秀「何勝手に先行とつてゐるんだ。」

取「先にドロ―した方が先行なんだよ。取ったもの勝ちだ。」

秀「なあに！？」

なんだそれは。クラッシュタウンデュエルだよ。

取巻 手札5枚↓手札6枚

取「はっはっはっ、ジャイアント・オークを攻撃表示で召喚。」

ジャイアント・オーク

効果モンスター

星4/闇属性/悪魔族/攻2200/守 0

このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になる。

次の自分のターン終了時までこのカードの表示形式は変更できない。

取「カードを一枚伏せてターンエンド。」

取巻 手札4枚 LP4000

場 ジャイアント・オーク 攻2200 伏せカード一枚

秀 手札5枚 LP4000

場 無し

秀「俺のターン！」

手札5枚↓手札6枚

秀「いきなりの攻撃力の2200モンスターか。だが問題ねえ。相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。行け、バイス・ドラゴン！」

バイス・ドラゴン

効果モンスター

星5/闇属性/ドラゴン族/攻2000/守2400

相手フィールド上にモンスターが存在し、

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードの元々の攻撃力・守備力は半分に
なる。

秀「さらにチューナーモンスター、ダーク・リゾネーターを召喚。」

ダーク・リゾネーター

チューナー（効果モンスター）

星3/闇属性/悪魔族/攻1300/守 300

このカードは1ターンに1度だけ、戦闘では破壊されない。

十「おつ、出るのか？シンクロ召喚！」

取「ふつ。やっぱり所詮オシリスレッドだ。」

秀「あん？どういうことだ。」

取「攻撃力2200のジャイアント・オーク生け贄にしてリバー
カードオープン！魔^まのデッキ破壊^{はかい}ウイルス！」

魔^まのデッキ破壊^{はかい}ウイルス
通常罠

自分フィールド上に存在する攻撃力2000以上の
闇属性モンスター1体をリリースして発動する。

相手フィールド上に存在するモンスター、相手の手札、
相手のターンで数えて3ターンの間に相手がドロートしたカードを全
て確認し、
攻撃力1500以下のモンスターを破壊する。

秀「なん……だと……。」

GXの時に普通入れねーよ。完全にメタ張って来てるじゃねーか。

もがき苦しみながらダーク・リゾネーターとバイス・ドラゴンは消
えた。

取「さあ、手札を見せろ。」

秀「くつ。」秀の手札

聖なるバリア・ミラーフォース・

紅蓮魔竜^{ぐれんまじゅう}の壺^{つぼ}

ランス・リンドブルム

クリッター

聖なるバリア・ミラーフォース・

通常罠（制限カード）

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

くれんまりゅう
紅蓮魔竜の壺 つぼ

（アニメ効果）

通常魔法

自分フィールド上に「レッド・デーモンズ・ドラゴン」が表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。
自分のデッキからカードを2枚ドロウする。

クリッター

効果モンスター（制限カード）

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1000 / 守 600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、

自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

ランス・リンドブルム

効果モンスター

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻1800 / 守1200

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

取「手札のクリッターを捨ててもらおうか。」

しぶしぶクリッターを墓地に送った。手札見られた上にシンクロまで封じられた。とりあえずウィルスが消えるまで待つしかない。

秀「カード一枚伏せてターンエンド。」

取巻 手札4枚 LP4000

場 無し

秀 魔のデッキ破壊ウィルス（1ターン経過） 手札2枚（紅蓮魔竜の壺、ランス・リンドブルム） LP4000

場 伏せカード一枚（聖なるバリア・ミラーフォース）

取「フン、それだけか。俺のターン。」

手札4枚↓手札5枚

大丈夫、問題無い。ミラフォを伏せた。攻撃した瞬間ドカンだ。……ってあれ？これが噂の説明死フラグ？

取「ふっ、どーせその伏せカードは聖なるバリア・ミラーフォース。なら、手札から速攻魔法、サイクロン発動！その伏せカードを破壊する。」

サイクロン

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

ミラフォが！フラグ言った途端これかよ。コンチキショー。

取「ハハハ。やっぱりな。さらに手札からアックス・ドラゴニユートを召喚。」

斧を持つ竜が現れた。

アックス・ドラゴニユート

効果モンスター

星4 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻2000 / 守1200

このカードは攻撃した場合、ダメージステップ終了時に守備表示になる。

取「バトル！アックス・ドラゴニユートでダイレクトアタックだ。」

アックス・ドラゴニユートは一瞬で近づき、斧を振り下ろした。

秀 LP4000 ↓ LP2000

秀「たわらばあっ！」

翔「秀君！」

十代「大丈夫か？」

秀「へっ、大丈夫だ。」

ホントはやべーけど。

取「アックス・ドラゴニユートは攻撃した場合、ダメージステップ終了時に守備表示になる。次のターンで終わりだ。ターンエンド。」

取巻 手札3枚 取巻 LP4000

場 アックス・ドラゴニユート 守1200

秀 魔のデッキ破壊ウイルス（1ターン目） 手札2枚（紅蓮
魔竜の壺、ランス・リンドブルム） LP2000

場 無し

秀「俺のターンー!!」

秀 手札2枚↓手札3枚

取巻「ウィルス効果だ。ドローカードを見せる。」

秀「ああ。ドローカードは光の護封剣」

ひかり ごふうけん
光の護封剣

通常魔法（準制限カード）

相手フィールド上に存在するモンスターを全て表側表示にする。このカードは発動後、相手のターンで数えて3ターンの間フィールド上に残り続ける。このカードがフィールド上に存在する限り、相手フィールド上に存在するモンスターは攻撃宣言をする事ができない。

取「何！光の護封剣だと！」

秀「よし、ウィルスの効果を受けない。このまま手札に加えるぜ。そして発動！」

光の護封剣が相手のフィールドに突き刺さる。

秀「さらに手札からランス・リンドブルムを攻撃表示で召喚！」
槍を持った竜が現れた。

秀「バトル！ランス・リンドブルムで攻撃！」

守備表示のアクセス・ドラゴニートを貫いた。
アクセス・ドラゴニート守1200

VS

ランス・リンドブルム
攻1800

取巻 LP4000 ↓ LP3400

取「ちっ、レッドの分際で。」

悪かったな、レッドで。

秀「ターンエンド。」

取巻 手札3枚 LP3400

場 無し

秀 魔のデッキ破壊ウイルス（2ターン目） 手札1枚（紅蓮
魔竜の壺） LP3400

場 ランス・リンドブルム攻1800

光の護封剣（ターン経過×0）

取「おのれ、俺のターン。」

手札3枚↓手札4枚

取「ダーク・ヒーロー　ゾンバイアを攻撃表示で召喚。」

どこからかアメリカのコミックのヒーローが現れた。

ダーク・ヒーロー　ゾンバイア

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 戦士族 / 攻2100 / 守　500

このカードが戦闘によってモンスターを破壊する度に、

このカードの攻撃力は200ポイントダウンする。

このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事はできない。

取「カードを伏せてターンエンド。」

取巻　手札2枚　LP3400

場　ダーク・ヒーロー　ゾンバイア攻2100　伏せカード一枚

秀　魔のデッキ破壊ウイルス（2ターン目）　手札1枚（紅蓮

魔竜の壺）　LP3400

場　ランス・リンドブルム攻1800

光の護封剣（ターン経過×0）

秀「俺のターン!!!!」

取「さあ、見せる。」

秀「ドローカードは死者蘇生。」

死者蘇生
ししゃそせい

通常魔法（制限カード）

自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

秀「残念だったな。」

取「……………」

秀「こいつもウィルスの効果を受けない。そして発動！墓地の「マジック・ジャマー」……？」

マジック・ジャマー

カウンター罠

手札を1枚捨てて発動する。

魔法カードの発動を無効にし破壊する。

取「手札を1枚捨てて発動するカウンター罠だ。死者蘇生の発動を無効にし破壊する。」

手札2枚↓手札1枚

……………おいいいいいい！ホントにモブキャラ！？タイミング良すぎだろ。詰め込みしてんじゃねーのか？

秀「……………ターンエンド。」

取巻 手札1枚 LP3400

場 ダーク・ヒーロー ゾンバイア攻2100

秀 魔のデッキ破壊ウイルス（2ターン目） 手札1枚（紅蓮魔竜の壺） LP2000

場 ランス・リンドブルム攻1800 光の護封剣（ターン経過×1）

取「俺のターン。」

手札1枚↓手札2枚

取「はっはっはっ、ダーク・ヒーロー ゾンバイアを生け贄に、偉大魔獣ガーゼットを生け贄召喚だ！」

グレートまじゅう
偉大魔獣 ガーゼット

効果モンスター

星6 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻 0 / 守 0

このカードの攻撃力は、生け贄召喚時に生け贄に捧げたモンスター1体の元々の攻撃力を倍にした数値になる。

無駄にでかい奴が出てきた。

取「偉大魔獣ガーゼットの攻撃力は4200！」

秀「だが光の護封剣の効果で攻撃はできないぜ。」

取「しかしその光の護封剣の効果も後わずかだ。ターンエンド。」

取巻 手札1枚 LP3400

場 偉大魔獣ガーゼット攻4200

秀 魔のデッキ破壊ウイルス（2ターン目）

手札1枚〔紅蓮魔竜の壺〕 LP2000場 ランス・リ
ンドブルム攻1800 光の護封剣（ターン経過×2）

秀「俺のターン！！！！」

取「最後のウィルス効果だ。見せな。」

秀「引いたのはコール・リゾネーター」

コール・リゾネーター

通常魔法

自分のデッキから「リゾネーター」と名のついたモンスター1体を
手札に加える。

取「また魔法カードだと！？」

まったく自分でもびっくりだ。転生してチートドロでもついたの
か？

秀「まっ、いつか。とりあえず発動オ！デッキからフレア・リゾネ
ーターを手札に加える。」

フレア・リゾネーター

チューナー（効果モンスター）

星3 / 炎属性 / 悪魔族 / 攻 300 / 守 1300

このカードをシンクロ素材とした

シンクロモンスターの攻撃力は300ポイントアップする。

翔「あれ？でもウイルス効果で破壊されるんじゃないの？」

十「そういえばそうだな。」

秀「ドロー以外では魔のデッキ破壊ウイルスの効果は受けない。だから破壊されねーんだよ。」

翔「なるほど。」

十「それより手札にチューナーってことは……。」

秀「ああ、さっき加えたフレア・リゾネーターを召喚！見せてやるぜ、これがシンクロ召喚だ！レベル4ランス・リンドブルムにチューナーモンスター、レベル3フレア・リゾネーターをチューニング！」

炎を纏った悪魔が音叉を鳴らし、三つの輪となった。その三つの輪は直列し、ランス・リンドブルムを包み込む。

包み込まれたランス・リンドブルムは光り出し、四つの光の球となった。

取「ふん、レベル7。エクスプロード・ウイング・ドラゴンか？」

秀「ふつ、それはどうかな。」

取「何！」

秀「新たな紅蓮の魂、今ここに混じわりて全てを蹂躪する。」

4 + 3 = 7

秀「シンクロ召喚！君臨せよ。デーモン・カオス・キング！」

禍々しく、王者の威風がある悪魔が現れた。

デーモン・カオス・キング

シンクロ・効果モンスター

星7/闇属性/悪魔族/攻2600/守2600

悪魔族チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードの攻撃宣言時、

相手フィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターの

攻撃力・守備力をバトルフェイズ終了時まで入れ替える事ができる。

取「何！エクスポード・ウイング・ドラゴンじゃないだと！」

秀「レベル7だからってエクスポード・ウイング・ドラゴンとは限らないぜ？」

取「だ、だがそれでも攻撃力2900。俺の偉大魔獣ガーゼット攻撃力4200には及ばない。」

秀「攻撃力が全てじゃねー。デュエルはそこがいいんだ。バトル！デーモン・カオス・キングで偉大魔獣ガーゼットに攻撃キング・オブ・カオス！」

取「馬鹿が！迎え撃て！ガーゼット！」

偉大魔獣ガーゼット攻4200

V S

デーモン・カオス・キング攻2900

秀「この瞬間、デーモン・カオス・キングの効果を発動！デーモン・カオス・キングの攻撃宣言時、相手フィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターの攻撃力・守備力をバトルフェイズ終了時まで入れ替える事ができる。よって攻撃力は。」

偉大魔獣ガーゼット攻4200↓攻0

V S

デーモン・カオス・キング攻2900

取・万・十・翔「「「攻撃力、0！？」」」」

取巻 LP3400↓LP500

取「うわーっ。」

秀「このままターンエンド。」

取巻 手札1枚 LP500

場 無し

秀 手札1枚〔紅蓮魔竜の壺〕 LP2000

場 デーモン・カオス・キング攻2900 光の護封剣（ターン経過×2）

万「貴様く、オシリスレッドごときに負けるのは許さんぞ！」

取「！？………すみません、万丈目さん。」

秀「おい、その鳥頭。」

万「誰が鳥頭だ、万丈目だ。」

秀「なら鶏。コッココッコつるせーんだよ。黙ってる。」

万「なんだと。貴様あ。」

秀「取巻。」

万「無視するな！」

秀「あんな風に言われて満足か？」取「……………」。

秀「まだデュエルは終わってない。次のドローに掛けないのか？」

取「しかし、これじゃ……。」

秀「それはドローしてから言え。逆転できるかわからねー。それでも引くんだけ。デッキを信じて。そうすれば、デッキは答えてくれる。」

「

取「……分かった。」

取巻はデッキに手を掛け、勢い良く引いた。

取巻 手札1枚↓手札2枚

取「…ありがとう、俺のデッキ。」

引いたか。いいカードを。

取「手札から魔法カードデビルズ・サンクチュアリを発動。」

デビルズ・サンクチュアリ

通常魔法

「メタルデビル・トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）を自分のフィールド上に1体特殊召喚する。

このトークンは攻撃をする事ができない。

「メタルデビル・トークン」の戦闘によるコントローラーへの超過ダメージは、

かわりに相手プレイヤーが受ける。

自分のスタンバイフェイズ毎に1000ライフポイントを払う。

払わなければ、「メタルデビル・トークン」を破壊する。

取「効果によりメタルデビル・トークン（悪魔族・闇・星1・攻/守0）を1体特殊召喚するそして。メタルデビル・トークンを生け贄に雷帝ザボルグを生け贄召喚！」

雷帝ザボルグ

効果モンスター

星5 / 光属性 / 雷族 / 攻2400 / 守1000

このカードの生け贄召喚に成功した時、

フィールド上のモンスター1体を破壊する。

秀「ここでそれが。」

秀「ザボルグの効果でデーモン・カオス・キングを破壊！」

ザボルグの雷で塵となるデーモン・カオス・キング。

取「ターンエンド。そして、この瞬間、光の護封剣は消える。」

取巻 手札1枚 LP500

場 雷帝^{らいてい}ザボルグ

秀 手札1枚〔紅蓮魔竜の壺〕LP2000

場 無し

……………。オイイイイ。逆にピンチになっちまったあああああ。
くそ、俺もこのドローに掛けるっきゃねー。

秀「俺のターーーン!!!!!!」

秀 手札1枚↓手札2枚

……………よし、このカードは。

秀「手札から貪欲な壺を発動！墓地に存在するダーク・リゾネータ

ー、バイス・ドラゴン、クリッター、フレア・リゾネーター、デーモン・カオス・キングを選択する。」

どんよく つぼ
貪欲な壺

通常魔法（制限カード）

自分の墓地に存在するモンスター5体を選択し、デッキに加えてシャッフルする。

その後、自分のデッキからカードを2枚ドローする。

秀「選択したカードをデッキに戻し、シャッフル。その後、デッキからカードを2枚ドロー！」

秀 手札1枚↓手札3枚

秀「相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚することができる。来い、バイス・ドラゴン！さらにチューナーモンスター、ダーク・リゾネーターを召喚！」

取「何！戻したカードを引き当てたというのか。」

秀「まあな。」

アニメとかではあることだ。

秀「今度こそいくぜ！レベル5バイス・ドラゴンにレベル3ダーク・リゾネーターをチューニング！」

5 + 3 = 8

秀「紅蓮の炎　今ここに列を成す。天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！燃え上がる魂！レッド・デーモンズ・ドラゴン！」

レッド・デーモンズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2000

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻撃した場合、

ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを全て破壊する。

このカードが自分のエンドフェイズ時に表側表示で存在する場合、このターン攻撃宣言をしていない自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

十代「すっげー、これが秀の切り札、レッド・デーモンズ・ドラゴンか。」

秀「まだだ、さらに手札から魔法カード、紅蓮魔竜の壺発動。自分フィールド上にレッド・デーモンズ・ドラゴンが表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。よってデッキからカードを2枚ドロー！」

秀　手札0枚↓手札2枚

秀「バトル！レッド・デーモンズ・ドラゴンで雷帝ザボルグに攻撃！アブソリュート・パワーフォース！」

レッド・デーモンズ・ドラゴン　攻3000

V S

雷帝ザボルグ 攻2400

右手に溜めた一撃がザボルグに叩き込まれた。

取「ぐああああ。」

取巻 L P 5 0 0 ↓ L P - 1 0 0

秀「いいデュエルだったぜ。取巻。」

取「ああ。こっちも大切な物に気がつけた。礼を言う。」

秀「大したことじゃねーよ。それよりほらっ。」

そう言って手を出した。

取「……っふ。」

取巻も手を出し、握手した。

取「またデュエルしてくれよ。」

秀「ああ。またな。」

そう言って手を離し、十代と翔の方へ向かった。

十「やったな。」

翔「すごいッスよ。」

秀「まあな。結構ギリギリだったぜ。」

万「おい、貴様あ。負けやがって。」

向「こう側で万丈目が何か言っている。」

万「聞ってるのか。」

取「万丈目さん。」

万「何だ。」

取「前から一つ言いたいことがあります。」

万「ふん、いってみろ。」

取「いきますよ。調子に乗るな鳥頭。」

そう言つて取巻はデュエル場から出て行つた。

万「……貴様ああ!」

ものすごく怒ってる。

万「おい、103番。」

秀「何だよ。」

急に呼ばれた。

万「俺とデュエルしろ！」

怒りの矛先を俺に向けてきた。

秀「さっきやったばかりだから断る。そうだ、十代、代わりにやってくれ。」

十「え、俺は良いけどさ。」

万「ふん、貴様でもいい。俺はいらいらしてるんだ。デュエルしろ！」

とりあえず原作通り十代と万丈目がデュエルをした。そしてデュエルも終盤になった。

十「俺のターン。ドロー。」

手札1枚↓手札2枚

原作通りだと確か死者蘇生を引いたはず。

しかしそれだと勝てない。どうなる？

十「手札からE・HERO バブルマンを守備表示で召喚！」

E・HERO エレメンタルヒーロー バブルマン (アニメ効果)

効果モンスター

星4 / 水属性 / 戦士族 / 攻 800 / 守 1200

手札がこのカード1枚だけの場合、

このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時に

自分のフィールド上に他のカードが無い場合、

デッキからカードを2枚ドローする事ができる。

十「効果により二枚ドローする。」

十代 手札1枚↓手札3枚

何！バブルマンだと！？しかもアニメ効果の。俺も紅蓮魔竜の壺使ったけど。

明「ガードマンが来たわ。」

途中来たブルーの女子、天上院 明日香が言った。

秀「何！十代！逃げるぞ。」

十「嫌だ、俺は帰らないー。」

秀「おもちゃ屋の前の子供か！翔お、手伝ってええ。」

秀「あー、危なかった。」

ガードマンから逃げた俺たちは一息ついていた。

明「でもよかったじゃない。あのままじゃ負けてるかもしれないのよ。」

十「いや、俺の勝ちだ。」

明「え？」

十「俺の引いたカードはミラクル・フュージョンと戦士の生還だ。」

ミラクル・フュージョン

通常魔法

自分のフィールド上または墓地から、融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、「E・HERO」という名のついた融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

（この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

戦士の生還

通常魔法

自分の墓地に存在する戦士族モンスター1体を選択して手札に加える。

十「墓地のフレイムウィングマンを戻してからミラクル・フュージョンでもう一回融合すればいいのさ。」

秀「確かにそうだが……フレイムウィングマン一枚だったのか？」

十「ああ、一枚しかないんだ。」

普通二、三枚入れないか？アニメだからか？

秀「とりあえず帰ろうぜ。ここにいたらガードマンに見つかるかもしれないーし。」

十「そうだな。帰ろうぜ。翔。」

翔「あ、待ってよアニキ、秀君。」

そう言っつて、俺たちは寮に帰るのだった。

第3話 夜の学校はおっかない（後書き）

第2話終了です。十代一種類に一枚しか持ってなさそうじゃないですか。アニメ効果つてのもご都合主義つて事で。感想批判、お待ちしております。

第4話 ドラマの犯人には同情したい時はある（前書き）

第4話です。ものすごく短いです。デュエルもないです。

第4話 ドラマの犯人には同情したい時はある

〔秀SIDE〕

秀「はあ……。」

俺はため息をついた。今は本日最後の授業だから、普通は喜ぶべきであつたため息などはつかない。では何故ついたのか。

翔「えへ、えへへ。」

と右隣には変な笑い方でにやけている翔。そして左隣には

十「ガッチャ、楽しいデュエルだったぜ、……………ムニヤムニヤ……………」

と、夢で楽しいデュエルしている十代。

そして、右斜め後ろからこの前の事（鳥頭と言った事）を気にしている万丈目からすごい痛い視線、殺気を感じる。しかしそれだけではない。今授業している先生はよりによって第2話でデュエルし、倒してしまったクロノス先生だ。時々怒りの混ざった視線を感じる。

俺なんか悪いことした？とにかく俺は、早く授業が終わるのを願った。

寮に帰った俺は特に何もすることはなかった。

秀「……………、暇だ。」

デッキ調整も必要ないし、部屋も掃除したばかりでする必要はない。

秀「十代の所でも行くか。」

そう言って三つ隣の部屋の前に立ち、ドアをノックした。

秀「翔が誘拐された？」

十代と話していると十代のPDAに誰かからそう連絡が入ったらしい。まあ犯人は知っているが。

秀「で、どうする？」

十「決まってるだろ、助けに行く。そこで頼みがあるんだけど。」

秀「何だ。」

十「女子寮の道がわかんねーから付いて来てほしいんだけど。」

秀「どーせ暇だ、いいぜ。」

十「よっしゃー。じゃあ早速、翔の所に行こうぜ。」

と言うことで来たのだが、

秀「……………。十代、帰っていい？」

翔「何言っているツスか、助けてほしいツス。」

ぐるぐる巻きにお縄を頂戴されている翔は叫んでる。

秀「つてもよー、現行犯だろ？いくら何でもなー。翔、運が悪かったってことで。何、お前の事は忘れない、フォーエバー、翔。」

翔「そんなこといわず助けてツスよ。」

十「そうだぜ、秀。あのままじゃ翔がかわいそうだろ？」

秀「わかってるって、とりあえず話し合いで解決しよう。話せば分かるって。」

そう言つて俺はよれよれの茶色のコートを着て、メガホンを手に取った。

秀「犯人に告げるー。お前たちは完全に包囲されているー。大人しく人質を解放しなさい。これ以上罪をかさねるなー。故郷の両親も心配してるぞー。（棒読み）」

翔「ぜんぜん説得力ないツスよ。」

明「というより何のコスプレ？」

十「しかもメガホンいらないぞ、この距離だと。」

色々ツツコまれた。

秀「まあとりあえずだ、学校に何も言わないって事は何か要求でもあるんだろ？」

明「ふざけてる割には勘がいいわね。」

秀「で、その要求とは？」

明「そうね、遊城　十代、私とデュエルしてもらうわよ。」

原作通りの展開になりそうだな。

秀「じゃあ頑張ってきて、十代。翔のためにも頑張れよ。」

十「ああ、行ってくるぜ。」

そう言つてデュエルを始める十代。

てあれ？そうなると結局暇になるじゃねーか。そんな事考えてるとデュエルもかなり進んだ。展開速すぎだろ。

十「サンダー・ジャイアントで攻撃！ボルテック・サンダー！」

決まったな。それにしても電撃が水中に潜んでいたクロノス先生に当たっている。ソリッドビジョンって少しは体感するけどプレイヤーだけじゃなかったのか？そういえばTFで遊星に増幅装置渡すと喜んでたな。あれはちよつとびっくりした。

十「ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ。」

うーん、やっぱり良いセリフだな。俺はアニメの方が漫画の決めゼリフより好きだ。まあ、それはともかく、翔は無事解放された。

翔「助かったツスよ。ありがとうアニキ。」

十「ああ、無事でよかったぜ。」

秀「いやー、よかったよかった。」

翔「秀君は何もしてなかったツスよ。」

秀「なにいつてんだ、俺の全力の説得によりだな。」

十「まあまあとにかく帰ろうぜ。」

翔「そうっすね。」

そう言ってボートを漕いで帰った。あれ？俺今回デュエルしてないじゃん。

第4話 ドラマの犯人には同情したい時はある（後書き）

第4話終了です。なかなか原作の先の話に進みません。

第5話 アンティルールで賭けるカードは平等に（前書き）

第5話です。オリキャラがです。ちょっとキャラが統一しないで
す。（悲）

第5話 アンティルールで賭けるカードは平等に

く秀SIDEく

ある昼の購買、その日俺はいつものようにドロパンを買っていただけだった。

秀「頼むく、黄金のタマゴパン、当たれく…。」

念仏でも唱える感じに三個買った。周りの人はちよつと引いていたが気にしない。俺にとって黄金のタマゴパンが当たるかどうかはとても大切なことだからだ。

秀「とりあえず開けるか。」

早速、購買の近くで開けることにした。

秀「…っん？」

そこでブルーの生徒とレッドの生徒が言い争っていた。ブルーは感じ悪そうな奴だった。レッドは浪人生みたいな顔をした見たことない奴だった。

ブルー生A「おい、そのレッドのクス野郎。いいカードよこせ。」

レッド生A「と言ってもないでござる。」

なんかすごい時代がかった口調で話しているレッド生A。いつの時代から来たんだ？しかしあんな奴原作にいたか？つと、そんな事は

どうでもいい。まず一つ目っと。

ブルー生A「そんな事良いんだよ。デッキでも見せる。」

レッド生A「それはいいでござるよ。」

いいのかよ。……うげっ、当たったのはゴーヤパンかよ。苦え。くそ、次だ！

ブルー生A「ほう、いいカード持ってるじゃねえか。貰っていくぜ。」

レッド生A「そ、それはだめでござる。」

なんかやばい感じになってきたな。……グアアア、なんじゃあこりゃああ、トウガラシパンだと。くそがああ。チクショー、次こそは……。

ブルー生A「いいからよこせ、レッドのクス野郎！」

レッド生A「これだけは、これだけは……。」

そっちの事なんてどうでもいいいい。最後の、ドロー……。こっ、これは、まさか……。

ブルー生A「いいからよこせ！」

レッド生A「ぐっ。」

レッド生Aはブルー生Aに押され、俺にぶつかった。そしてぶつか

った反動でドロパンは床に落ち、レッド生Aの下敷きになった。

秀「……………」

ブルー生A「へっ、レッドの分際で逆らうんじゃねえ。」

秀「おい。」

ブルー生A「ああ?」

秀「テメー、今何しやがった…。」

ブルー生A「はあ?なにいつて「何しやがったってきいてんだあああ!」

!?!」

秀「デュエルしろ、そして自らの罪を数えるがいい。」

ブルー生A「へっ、このオベリスクブルーの俺様がオシリスレッド如きにデュエルするか。馬鹿が。」

秀「怖えーのか?」

ブルー生A「何だと。」

秀「そのオシリスレッド如きにデュエルで負けるのが。その程度の覚悟じゃあ、オベリスクブルーの名が泣くぜ?」

ブルー生A「ふん、いいだろう。デュエルしてやる。その代わり、

俺が勝つたら貴様のデッキのカードをすべて貰っていくぜ。」

デッキすべてを賭けたアンティルールだと？ふざけたことを。

秀「ならテメーは？アンティルールならテメーはなにを賭けるつもりだ？」

ブルー生A「ふん、どーせ俺は勝つからなあ。何でもいいぜ？」

余裕だな。どこから出るんだ？その余裕は。一瞬俺はちらつと、さっきのレッド生の事を見た。

秀「なら、テメーがこいつから奪ったカードだ。いいな。あ、後ドロパン五つ。」

ブルー生A「はっ、いいだろう。それじゃ、」

「デュエル！！」

ブルー生A LP4000

秀 LP4000

ブルー生A「先行はもらうぜ。ドロー。」

ブルー生A 手札5枚↓手札6枚

ブルー生A「俺は切り込み隊長を攻撃表示で召喚。」

切り込み隊長きこ たいちよう

効果モンスター

星3 / 地属性 / 戦士族 / 攻1200 / 守 400

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

相手は表側表示で存在する他の戦士族モンスターを攻撃対象に選択する事はできない。

このカードが召喚に成功した時、

手札からレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

ブルー生「さらに効果により手札からゴブリン突撃部隊を特殊召喚だ。」

ゴブリン突撃部隊
とつげぶたい

効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / 攻2300 / 守 0

このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になり、

次の自分のターンのエンドフェイズ時まで表示形式を変更する事ができない。

ブルー生A「カードを一枚伏せてターンエンドだ。」

ブルー生A 手札3枚 LP4000

場	切り込み隊長	攻1200	ゴブリン突撃部隊	攻2300
00	伏せカード一枚			

秀 手札5枚 LP4000

場 無し

秀「俺の、ターン！」

秀 手札5枚↓手札6枚

うち、手札が悪い。

秀「ツイン・ブレイカーを攻撃表示で召喚。」

ツイン・ブレイカー

効果モンスター

星4/闇属性/戦士族/攻1600/守1000

このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合、
もう1度だけ続けて攻撃する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、
その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦
闘ダメージを与える。

秀「バトル！ツイン・ブレイカーで切り込み隊長に攻撃！斬り刻め
！ダブル・アサルト！」

切り込み隊長を真つ二つにした。

切り込み隊長 攻1200

ツイン・ブレイカー 攻1600

ブルー生A LP4000↓LP3600

ブルー生A「ぐっ。」

秀「カードを三枚伏せてターンエンドだ！」

ブルー生A 手札3枚 LP4000

場 ゴブリン突撃部隊攻2300 伏せカード一枚

秀 手札2枚 LP4000

場 ツイン・ブレイカー 攻1600 伏せカード三枚

ブルー生A「俺のターン、ドロー。」

ブルー生A 手札3枚↓手札4枚

ブルー生A「馬鹿な奴だ、俺様より攻撃力の高いモンスターを残してターンを終了するとは。俺は手札から鉄の騎士 ギア・フリードを召喚だ！」

鉄の騎士^{てつ} ギア・フリード

効果モンスター

星4/地属性/戦士族/攻1800/守1600

このカードに装備カードが装備された時、その装備カードを破壊する。

ブルー生「さらにリバースカードオープン。魔法カード、二重召喚だ！」

デュアルサモン
二重召喚

通常魔法

このターン自分は通常召喚を2回まで行う事ができる。

ブルー生A「そして、二体のモンスターを生贄にさつき手に入れた最強カード、大將軍 紫炎を生贄召喚するぜ。」

秀「…………、ハイ？」

だいしょうぐん
大將軍 紫炎 シエン

効果モンスター

星7/炎属性/戦士族/攻2500/守2400

自分フィールド上に「六武衆」と名のついたモンスターが2体以上存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手プレイヤーは1ターンに1度しか魔法・罠カードの発動ができない。

このカードが破壊される場合、代わりにこのカード以外の「六武衆」という名のついたモンスターを破壊する事ができる。

ブルー生A「どうした、あまりにも強そうなモンスターが出てきてびびったか？」

秀「…………、いや、それで？」

ブルー生A「え？」

秀「生贄召喚で出すかあ、フツー。効果使えよ、効果。」

生贄召喚で出した奴初めて見たわ。

ブルー生A「はっ、負け惜しみを。バトル！紫炎でその雑魚を攻撃！」

大將軍 紫炎 攻2500

VS

ツイン・ブレイカー 攻1600

紫炎は刀を構え、迫って来る。

秀「そんなもんじゃ、俺の魂は碎けねーよ。リバーズカードオープン！プライドの咆哮！」

ブルー生A「何だ？そのカードは？」

プライドの咆哮ほうこう

通常罠

戦闘ダメージ計算時、自分のモンスターの攻撃力が相手モンスターより低い場合、その攻撃力の差分のライフポイントを払って発動する。

ダメージ計算時のみ、自分のモンスターの攻撃力は相手モンスターとの攻撃力の差の数値+300ポイントアップする。

秀「自分のモンスターの攻撃力が相手モンスターより低い場合、その攻撃力の差分のライフポイントを払って発動するカードだ。」

秀 LP4000 ↓ LP3100

「そして、ダメージ計算時のみ、ツイン・ブレイカーの攻撃力は紫炎との攻撃力の差の数値+300ポイントアップする！つまり攻撃力は」

ツイン・ブレイカー 攻1600 ↓ 攻2800

ブルー生A「バカな。攻撃力が大將軍 紫炎を上回っただと。」

秀「バトルは続いている。迎え撃て！ツイン・ブレイカー！」

大將軍 紫炎 攻2500

VS

ツイン・ブレイカー 攻攻2800

ブルー生A LP4000 ↓ LP3700

ブルー生A「紫炎が、俺の最強カードが負けるなんて！」

秀「他人から奪っという何が俺のカードだ。奪ったカードではデュエルには勝てねー。てめーにカードは応えてくれねーからな。」

ブルー生A「はっ、カードが応える？なにいつてんだ、カードは強さだ！そんなもの、反吐がでる。」

秀「そうか、まっ、テメーには分からねーだろーがな。まだテメーのターンだ。どうする？」

ブルー生A「カードを一枚伏せてターンエンドだ。」

ブルー生A 手札1枚 LP3700

場 伏せカード一枚

秀 手札2枚 LP3100

場 ツイン・ブレイカー 攻1600 伏せカード二枚

秀「俺の、ターン!!」

手札2枚↓手札3枚

秀「悪いがテメーはこのターンで終わりだ。」

ブルー生A「バカな。そんな事できる筈がない。」

秀「いや、できる!手札からチューナーモンスター、デルタフライを攻撃表示で召喚!」

デルタフライ

チューナー（効果モンスター）

星3/風属性/ドラゴン族/攻1500/守 900

1ターンに1度、このカード以外の自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択してレベルを1つ上げる事ができる。

秀「デルタフライのモンスター効果、1ターンに1度、デルタフライの自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択してレベルを1つ上げる事ができる。ツイン・ブレイカーのレベルを1つ上げる!」

ツイン・ブレイカー 4↓ 5

秀「行くぞ、レベル5となったツイン・ブレイカーにレベル3のチューナーモンスター、デルタフライをチューニング!」

デルタフライが光り、三つの輪になった。その三つの輪は直列し、ツイン・ブレイカーを包み、光り出して五つの光の球となった。

5 + 3 = 8

秀「紅蓮の炎　今ここに列を成す。天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！燃え上がる魂！レッド・デーモンズ・ドラゴン！」

レッド・デーモンズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2000

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを全て破壊する。

このカードが自分のエンドフェイズ時に表側表示で存在する場合、このターン攻撃宣言をしていない自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

秀「さあ、バトルだ！レッド・デーモンズ・ドラゴンでダイレクトアタック！アブソリュート・パワーフォース！」

ブルー生A「馬鹿め、リバースカードオープン！聖なるバリア・ミラーフォース――！」

聖なるバリア・ミラーフォース -

通常罠（制限カード）

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

ブルー生A「これでお前のモンスターを破壊する。ざまあみる！」

秀「……ふつ、残念だったな。カウンター罠発動！魔宮の賄賂！」

まきゆう
魔宮の賄賂

カウンター罠

相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

相手はデッキからカードを1枚ドローする。

秀「テメーのミラフォは無効だ！そしてサービスだ。一枚ドローしろ。」ブルー生A「くそ！」

手札1枚↓手札2枚

秀「バトルは続いているぜ。追撃！灼熱のクリムゾン・フレア！」

ブルー生A LP3700 ↓ LP700

ブルー生A「グアアア、ふつ、ふふふははは！耐え抜いた！耐え抜いたぞ！俺のライフはまだ残っている。次のターンで「リバーSCカードオープン！バスター・モード！」！？」

バスター・モード

通常罠

自分フィールド上に存在するシンクロモンスター1体をリリースして発動する。

リリースしたシンクロモンスターのカード名が含まれる「ノバスター」と名のついたモンスター1体を自分のデッキから攻撃表示で特殊召喚する。

秀「俺は場のレッド・デーモンズ・ドラゴンを生贄にして発動！効果によりレッド・デーモンズ・ドラゴン/バスターをデッキから特殊召喚する。」

バスター・モードから光が、レッド・デーモンズ・ドラゴンを覆い、すごくゴツくなった。

レッド・デーモンズ・ドラゴン/（スラッシュ）バスター
効果モンスター

星10/闇属性/ドラゴン族/攻3500/守2500

このカードは通常召喚できない。

「バスター・モード」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。

このカードが攻撃した場合、ダメージ計算後にこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

また、フィールド上に存在するこのカードが破壊された時、自分の墓地に存在する「レッド・デーモンズ・ドラゴン」1体を特殊召喚する事ができる。

秀「さて、次のターン、何をするって？」

ブルー生A「あ、ああ。」

もう愕然としてるよ。

秀「とりあえずとどめだ！エクストリーム・クリムゾン・フォース！」

ブルー生A「う、うぎゃあああ。」

ブルー生A LP700 ↓ LP - 2800

秀「アンティールルって約束だ。返してもらっぜ。」

そう言って大將軍 紫炎をデッキから抜き取る。

ブルー生A「くそ、覚えてろ！」

お決まりのセリフを残して走って行った。

秀「ほら、大事なもんだろ、よかつたな。」

大將軍 紫炎をレッド生Aに手渡す。

レッド生A「かたじけない。迷惑をかけ申した。」

秀「いーんだよ、ドロパンつぶされてイラッときたし、気にすんな。」

レッド生A「何か、何か礼をさせてください。何でもいいござる。」

秀「ドロパン一つ。それだけでいい。」

レッド生A「それだけでいいのでござるか！？他に何でもよいのですぞ。」

秀「いーんだよホント、礼なんてそんなくらいのもんだ。そうだ、

どーせならいつしよに食わねーか。」

レッド生A「そんな、拙者みたいな者と、よいのですか。」

秀「ああ。気にすんな。自己紹介してなかったな。高橋　秀だ。
よろしくな。」

レッド生A「な、なんと心優しき御方、感動いたしました!」

そう言つて……レッド生Aは何故か土下座をした。

レッド生A「拙者は上泉かみいずみ信義のぶよしと申します。是非、あなた様を親
方様と呼ばせてください!」

秀「……………ゑ? いやいやいや、ちよつとM A　T T E
! 何故そうなる!?」

信「親方様あああ。」

秀「誰が親方様だあああ。ちよつと、誰かあああ。助けてええ
ええ。」

俺のむなしい叫びは、デュエルアカデミアに響いた。

第5話 アンティルールで賭けるカードは平等に（後書き）

第5話終了です。次の話は決まっています。

次回、「第6話 試験は色々面倒だけどさあ、正直言って授業よりは楽だぜ、イヤッホオオオオオオオ」

次回もお楽しみに。えっ？してない？

第6話 試験は色々面倒だけどさあ、正直言って授業よりは楽だぜ、イヤッホオ

第6話です。ちょっと遅くなりました。

一部修正しました。

第6話 試験は色々面倒だけどさあ、正直言って授業よりは楽だぜ、イヤッホオ

く秀SIDEく

SIKEN、それは学生にとって避けられない地獄の一丁目である。ある者は絶叫し、そしてまたある者は病院にいくほどである。何故、現代社会においてそんな非道な行いが続いているのか。

秀「何故だくく！」

三「いや、そんなこと言わずに勉強してくれ。」

今俺は三沢の部屋にいる。理由はアレだ。頭良さそうだし、丁寧に教えてくれそうだし。

秀「にしても、すごいな。ミサワホーム、壁に方程式びっしりだ。」

360度見渡す限り方程式。頭が痛くなりそうだ。

三「ああ、すべて方程式でしないと気が済まないんだ。」

おい、ミサワホームにはツッコまないのか。

秀「そろそろ帰るか。」

三「いいのか。明日だぞ、試験。」

秀「平均よりく、上なら問題なくい。（遊戯王5D・S第三ED替え歌）」

三「気楽だな。」

秀「なに、実技で挽回するさ。今日はありがとうな、三沢。」

三「あ、……ああ。じゃあな。」

？なんか変な三沢。元気なさそうだ。まっ、いつか。三沢の部屋、もうミサワホームでいいや、とにかくミサワホームから出た俺は、自分の寮の部屋に向かった。

〳三沢SIDE〵

俺は秀が帰った後、一人呟いた。

三「誰か、俺の事を三沢じゃなくて、大地と呼んでくれ……。。」

〳秀SIDE〵

秀「ふい〳〵疲れた。」

下でばったり信義に見つかっちまった、勘弁してくれ、「親方様あ。

」
だぜ。会ったびにだ。ジョニー、俺あ疲れちまった。休ませてくれよ。

秀「だああああ。また遅刻だああああ。」

昨日そのまま寝ちまった俺は、迫り来る朝に気づかなかった。そして目が覚めたとき、別に体は縮んでなかったけど、遅刻しちまった。(コ。ン風)

秀「助けて、アガサ博士ええええ！」

俺は校舎の方へ全速前進した。

秀「遅くなりましたあ！」

大「やっと来たニヤ。テスト時間は後5分ニヤ。」

5分？間に合うか、俺？というより十代より遅れたのか？

秀「と、とにかくテスト用紙ください！」

大「はい、これニヤ。」

大徳寺先生から用紙を受け取ると、すぐに席に向かい、解き始めた。

大「そこまで、筆記は終わりニヤ」。テスト用紙は前に持ってくる

ように。午後からは昼休みを挟んで実技になるニヤ。」

秀「な、何とか全部埋まった。」

時間は無かったが、案外楽なテストだった。しかし、ブルーアイズに關係する問題が半分以上あったぞ。大丈夫なのか？デュエルアカデミア。

ドドドドド

ん、何だ。みんな走って行ったぞ。教室に残っているのは俺、三沢、十代、翔、そして信義の5人だ。つか、十代と翔は寝てたし。

信「大丈夫でございますか、親方様。」

秀「いや、だから……はあ、もういいや。」
もう諦めることにしよう。

三「君たちは行かないのか。」

秀「三沢か、どこにだよ。」

三「次の実技のためにも新しいパックを購買に買いに行かないのか？」

そつえばあったな。そんなこと。でもクロノスが買い占めるから無いはずだ。それに新しい？俺からしたら古く見えるしな。

秀「せっかく調整したデッキを崩すつもりはねーよ。」

三「そうか。とにかく俺は行くぞ。」

そう言って走る三沢。頑張れ、パツクはないけどな。

ク「それデハ、これより、実技試験を初めマスノ。」

ワアアアアアア……。

何これ、実技ってみんなが見てるところでやんのかよ。大丈夫かな、俺。緊張して来た。

ク「ではさっソク、レッドからスノ。シニョール秀、そしてシニョールノブヨシ、デュエル場に来るノネ。」

……………え？今なんて？

信「親方様、よろしく願いいたします。」

えええええええ。

デュエル場の行った俺は試験官の先生に速攻で

秀「チェンジイイ！対戦相手のチェンジをお願いしますうう！」

と言ったが、

試「駄目だ、なに言ってるんだ。」

と却下された。どうしよう。ものすごくやりづらい。

信「親方様と言えども、容赦いたしません。よろしくお願いいたします。」

元気よくデュエルディスクを展開する信義。何でそんな元気なんだ？頼むからその元気を少し分けてくれ。

信「デュエルでござる！」

秀「はあ、……デュエル。」

信義 LP4000

秀 LP4000

信「拙者の先行でござる。ドロー！」

信義 手札5枚↓手札6枚

信「拙者は手札から六武衆・カモン殿を攻撃表示で召喚するでござる。」

爆弾を持った武士が現れた。

ろくぶしゅう

六武衆・カモン

効果モンスター

星3 / 炎属性 / 戦士族 / 攻1500 / 守1000

自分フィールド上に「六武衆・カモン」以外の

「六武衆」と名のついたモンスターが存在する限り、1ターンに1度だけ表側表示で存在する魔法または罠カード1枚を破壊することができる。

この効果を使用したターンこのモンスターは攻撃宣言をする事ができない。

このカードが破壊される場合、代わりにこのカード以外の「六武衆」と名のついたモンスターを破壊する事ができる。

信「カードを一枚伏せてターンエンドでござる。」

信義 手札4枚 LP4000

場 六武衆・カモン 攻1500 伏せカード一枚

秀 手札5枚 LP4000

場 無し

はあ、やっぱり六武衆か。前に奪われたカードも六武衆の切り札だしな。

秀「俺のターン！」

秀 手札5枚↓手札6枚

秀「よし、ランス・リンドブルムを召喚！」

ランス・リンドブルム

効果モンスター

星4/風属性/ドラゴン族/攻1800/守1200

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

秀「バトルだ。ランス・リンドブルムでカモンを攻撃。」

ランス・リンドブルム 攻1800

VS

六武衆 - カモン 攻1500

信義 LP4000↓LP3700

信「ぐっ、カモン殿がやられたでござるか。」

秀「カードを二枚伏せてターンエンド。」

信「あ、まってくだされ、リバースカードオープンでござる。永続
罠、神速の具足。」

秀「何だと。」

神速しんそくの具足ぐそく

永続罫

自分のドローフェイズにドローしたカードが「六武衆」と名のついたモンスターカードだった場合、そのカードを相手に見せる事で自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

信義 手札4枚 LP3700

場 永続罫 神速の具足

秀 手札3枚 LP4000

場 ランス・リンドブルム 攻1800 伏せカード二枚

ちっ、面倒なカードを。だが、どうしようもねえ。

信「拙者のターン、ドロー！」

信義 手札4枚↓手札5枚

信「ドローしたカードは六武衆・ザンジ殿でござる。」

六武衆ろくぶしゅう・ザンジ

効果モンスター

星4 / 光属性 / 戦士族 / 攻1800 / 守1300

自分フィールド上に「六武衆・ザンジ」以外の「六武衆」と名のついたモンスターが存在する限り、このカードが攻撃を行ったモンス

ターをダメージステップ終了時に破壊する。

このカードが破壊される場合、代わりにこのカード以外の「六武衆」と名のついたモンスターを破壊する事ができる。

信「永続罨、神速の具足の効果により特殊召喚するでござる。出陣じゃあ、ザンジ殿！」

神速の具足が光ると、薙刀を持った武士が現れた。

信「まだでござる！さらに手札から六武衆・ヤイチ殿を召喚でござる。」

今度は弓を持った武士が現れた。

ろくぶしゅう

六武衆・ヤイチ

効果モンスター

星3 / 水属性 / 戦士族 / 攻1300 / 守 800

自分フィールド上に「六武衆・ヤイチ」以外の「六武衆」と名のついたモンスターが存在する限り、1ターンに1度だけセットされた魔法または罨カード1枚を破壊する事ができる。この効果を使用したターンこのモンスターは攻撃宣言をする事ができない。

このカードが破壊される場合、代わりにこのカード以外の「六武衆」という名のついたモンスターを破壊する事ができる。

信「さつそくヤイチ殿の効果を発動するでござる。拙者から見て右のカードを破壊するでござるよ。魔封じの矢！」

ヤイチから放たれた矢は俺のカードを貫いた。破壊されたのはミラフォ。くそお、またおまえか！転生してから破壊されすぎだろ！それに場には二体の六武衆……奴が来るか？

信「さらに、場に六武衆が2体以上存在する場合、総大将である大將軍 紫炎殿を手札から特殊召喚するでござるううう。」

だいしょうくん
大將軍 紫炎

効果モンスター

星7 / 炎属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守2400

自分フィールド上に「六武衆」と名のついたモンスターが2体以上存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手プレイヤーは1ターンに1度しか魔法・罠カードの発動ができない。

このカードが破壊される場合、代わりにこのカード以外の「六武衆」という名のついたモンスターを破壊する事ができる。

来やがったあああ！六武衆の切り札。だから嫌なんだよ。六武衆。バンバン展開してくるし。まだ師範が居ないだけかもしれませんが。

信「頼むぞ紫炎殿おお。」

めちゃくちゃテンション上がってる信義。こっちは切り札出されてテンション下がってるって。

信「いざ参る！大將軍 紫炎殿で親方様のランス・リンドブルムを攻撃でござる！終の秘剣、天下布武！」

大將軍 紫炎は剣を前に片手で構え、剣先に火を宿した。その炎は剣を中心に渦を巻いている。あれ？この前とソリッド・ビジョンの演出が違うぞ。つかさあ、これ……

秀「ただの、火。霊神じゃねええかああ。」

おいしい！いいのか！？海馬コーポレーション、訴えられないかなコレ、大丈夫かな、コレ。同じジャンプ作品でも限度あるって。そんな事考えてたら紫炎はランス・リンドブルムに剣を叩きつけ、灰にしていた。

ランス・リンドブルム 攻1800

VS

大將軍 紫炎 攻2500

秀 LP4000 ↓ LP3300

秀「ぐつ。」

信「まだでござる。ザンジ殿で攻撃！から竹割り！」

は一気に近づき、上段から薙刀を振り下ろした。

秀「罨カード発動！」

秀 LP3300 ↓ LP?????

信「よし、これでライフは1500。勝負は貰ったでござる。」

秀「ふつ、それはどうかな？」

信「？」

秀「俺のライフをしてみる。」

そう言つてディスクを向けた。

秀 LP 3300

信「何故ライフが減っていないのでござるか！」

秀「俺が発動した罠カード、確認したか？発動したカードはガード・ブロックだ。」

ガード・ブロック

通常罠

相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。

その戦闘によつて発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

秀「こいつは自分への戦闘ダメージをキャラにしてカードを1枚ドローする効果がある。」

秀 手札3枚↓手札4枚

信「なるほど、さすがは親方様、やりますな。ターンエンドでござる。」

信義 手札2枚 LP 3700

場 大將軍 紫炎 攻 2500

六武衆・ヤイチ 攻1300

六武衆・ザンジ 攻1800

永続罨 神速の具足

秀 手札4枚 LP3300

場 無し

〈SIDE 観客席〉

三「まずいな。」

三沢はそう呟いた。

十「え、何がまずいだ？」

近くにいた十代が三沢に聞き返した。

三「大將軍 紫炎にはフィールド上に表側表示で存在する限り、相手プレイヤーは1ターンに1度しか魔法・罨カードの発動ができなくする効果がある。つまり動きを制限されてしまったんだ。」

十「でもさあ、紫炎を倒したらいいんじゃないのか？」三「いや、それも駄目だ。六武衆には共通の効果があり、破壊される時他の六武衆を身代わりに出来るんだ。紫炎も例外ではない。」

翔「じゃあどうするんっすか？」

十代の隣にいた翔が聞いた。

三「分からない。だが、勝負は次のターンだ。見ていれば分かる。」

三沢はそう言っでデュエル場の方を見た。

「秀SIDE」

さてと、やべーなあ、この状況。このドロでいいもん引かねーと。

秀「俺のターン!!」

手札4枚↓手札5枚

秀「ふっ、来たぜ。」

いいカードだ。やっぱり転生してからデスティニードロー並みのドロカが身に付いたみてーだ。

秀「相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、こいつは手札から特殊召喚する事ができる。来やがれ! バイス・ドラゴン! 守備表示で。」

ゴツゴツした体の龍が現れた。

バイス・ドラゴン

効果モンスター

星5 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻2000 / 守2400

相手フィールド上にモンスターが存在し、

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードの元々の攻撃力・守備力は半分になる。

秀「さらに手札からチューナーモンスター、ダーク・リゾネーターを攻撃表示で召喚！」

音叉を持った悪魔が現れた。

ダーク・リゾネーター

チューナー（効果モンスター）

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1300 / 守300

このカードは1ターンに1度だけ、戦闘では破壊されない。

秀「ん？」

一瞬ダーク・リゾネーターがこつちを見たような……目の錯覚か？

信「どうしたでござるか？」

秀「いや、何でもねー、続けるぞ。レベル5、バイス・ドラゴンにレベル3ダーク・リゾネーターをチューニング！」

ダーク・リゾネーターが音叉を鳴らし、三つの輪になり、バイス・ドラゴンを包む。バイス・ドラゴンは五つの光になる。

5 + 3 = 8

秀「紅蓮の炎　今ここに列を成す。天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！燃え上がる魂！レッド・デーモンズ・ドラゴン！！」

炎に包まれ、現れたのはレッド・デーモンズ・ドラゴン。毎回演出がいいな。かつけーじゃん。

信「来ましたな。親方様の切り札。しかし、紫炎は倒せませぬ。」

秀「んなもんわかってらー。でもよー。破壊できなくても戦闘ダメージはあるだろ？手札から魔法カード、ダブルアタックを発動！」

ダブルアタック

通常魔法

自分の手札からモンスターカード1枚を墓地に捨てる。

捨てたモンスターよりもレベルが低いモンスター1体を自分フィールド上から選択する。

選択したモンスター1体はこのターン2回攻撃をする事ができる。

秀「手札からレベル10のレッド・デーモンズ・ドラゴン/バスターを墓地に捨て、レッド・デーモンズ・ドラゴンは二回攻撃できる！」

信「なんと！」

秀「行け！レッド・デーモンズ・ドラゴンで六武衆・ヤイチに攻撃

！アブソリュート・パワーフォース！」

レッド・デーモンズ・ドラゴンは右手に溜めた力をヤイチにぶつけた。

六武衆 - ヤイチ 攻1300

VS

レッド・デーモンズ・ドラゴン 攻3000

信義 LP3700 ↓ LP2000

信「ヤイチ殿おお。」

叫ぶ信義。だが、容赦はしねえ。

秀「まだだ。レッド・デーモンズ・ドラゴンで、六武衆 - ザンジを攻撃！灼熱のクリムゾン・ヘル・フレア！！」

口から高熱の炎を放ち、今度はザンジを灰にした。

六武衆 - ザンジ 攻1800

VS

レッド・デーモンズ・ドラゴン 攻3000

信義 LP2000 ↓ LP800

信「ザンジ殿までえええ。」

再び叫ぶ信義。お気に入りのモンスターがやられると嫌なのは分かるけどさあ、デュエルだからな。しょーがーねーって。

秀「カードを一枚伏せてターンエンド。」

信義 手札2枚 LP800

場 大將軍 紫炎 攻2500

秀 手札4枚 LP3300

場 レッド・デーモンズ・ドラゴン

伏せカード一枚

信「むう、まずいでござる。だが、全力を尽くすまででござる。拙者のターン、ドロー！」

信義 手札2枚↓手札3枚

信「よし、ドローした装備魔法、団結の力を紫炎に装備するでござる。」

だんけつ ちから

団結の力

装備魔法

装備モンスターの攻撃力・守備力は、自分フィールド上に表側表示で存在する

モンスター1体につき800ポイントアップする。

信「装備した紫炎殿の攻撃力を800ポイントアップさせるでござる。」

大將軍 紫炎 攻2500 ↓ 攻3300

秀「くつ、やべーな。レッド・デーモンズを上回りやがった。」

信「参りますぞ。大將軍 紫炎でレッド・デーモンズ・ドラゴンを攻撃！終の秘剣、天下布武！」

さつきより勢いの激しい炎の一撃が、レッド・デーモンズに振り下ろされた。

大將軍 紫炎 攻3300

VS

レッド・デーモンズ・ドラゴン 攻3000

秀 LP3300 ↓ LP3000

秀「レッド・デーモンズ・ドラゴンが！」

信「ターンエンドでござる。」

信義 手札2枚 LP800

場 大將軍 紫炎 攻3300 装備魔法 団結の力（対象は大將軍 紫炎）

秀 手札4枚 LP3000

場 伏せカード一枚

やべーやべー、このままじゃマジでやばいつて。頼む、来てくれ、

秀「俺のターン！！！」

秀 手札4枚↓手札5枚

秀「手札から魔法カード、禁じられた聖杯を発動！」

禁じられた^{きん}聖杯^{せいはい}

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は400ポイントアップし、効果は無効化される。

紫炎の前に禁じられた聖杯を持った怪しい人が現れ、

怪「ささ、一杯。」

と言い、紫炎に飲ませた。

紫「おお、すまぬな。……………グアアア！毒かあああ。」

……………あほだろ、紫炎。

秀「とにかくこれで魔法とかに制限はねえ！手札から魔法カード、手札抹殺を発動！」

てふだまつさつ

手札抹殺

通常魔法（制限カード）

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

秀「効果は単純、お互いプレイヤーは手札を全て捨て、捨てた枚数分のカードをドローする効果だ。俺は三枚、お前は二枚捨て、お互い捨てた数だけドローする。」

秀の捨てたカード

ツイン・ブレイカー

マッド・デーモン

バトルフェーダー

信義の捨てたカード

貪欲な壺

打ち出の小槌

ツイン・ブレイカー

効果モンスター

星4/闇属性/戦士族/攻1600/守1000

このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合、もう1度だけ続

けて攻撃する事ができる。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

マッド・デーモン

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1800 / 守 0

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択された時、このカードの表示形式を守備表示にする。

バトルフェーダー

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻 0 / 守 0

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

このカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。

この効果で特殊召喚したこのカードは、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

打ち出の小槌^{ういで}

通常魔法

自分の手札を任意の枚数デッキに加えてシャッフルする。

その後、デッキに加えた枚数分のカードをドローする。

秀「行くぜ、リバーズカード、オープン！リビングデッドの呼び声。」

リビングデッドの呼び声^{よこえ}

永続罾（準制限カード）

自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。
このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

秀「墓地にいるマッド・デーモンを特殊召喚！」

骨だけの悪魔が現れた。

信「手札抹殺で捨てていたでござるか。」

秀「ああ、さらにチューナーモンスター、フレア・リゾネーターを
守備表示で召喚！」

炎を身に纏う悪魔が現れた。

フレア・リゾネーター

チューナー

効果モンスター

星3 / 炎属性 / 悪魔族 / 攻 300 / 守 1300

このカードをシンクロ素材としたシンクロモンスターの攻撃力は300ポイントアップする。

秀「こいつは出しなくなかったが、しょーがーねー。レベル4マッド・デーモンに、レベル3フレア・リゾネーターをチューニング！」

フレア・リゾネーターが音叉を鳴らし、三つの輪となった。その三つの輪は直列し、マッド・デーモンを包み込む。

包み込まれたマッド・デーモンは光り出し、四つの光の球となった。

秀「天空に輝く北斗七星よ！赤く燃える地獄の炎を見せつけよ！シンクロ召喚！絶望の死神、天刑王 ブラック・ハイランダー！」

大鎌を持った死神が現れた。

てんけいおう

天刑王 ブラック・ハイランダー

シンクロ・効果モンスター

星7/闇属性/悪魔族/攻2800/守2300

悪魔族チューナー+チューナー以外の悪魔族モンスター1体以上

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、お互いにシンクロ召喚をする事ができない。1ターンに1度、装備カードを装備した相手モンスター1体を選択して発動する事ができる。選択したモンスターに装備された装備カードを全て破壊し、破壊した数×400ポイントダメージを相手ライフに与える。

秀「さてと、ブラック・ハイランダーの効果発動！1ターンに1度、装備カードを装備した相手モンスター1体を選択し、選択したモンスターに装備された装備カードを全て破壊！」

ブラック・ハイランダーが大鎌を振るい、表側で存在していた団結の力を真つ二つにした。

信「な、団結の力が。」

秀「そして破壊した数×400ポイントダメージを与える。」

信義 LP800↓LP400

信「ぬう、しかしこの程度。」秀「これで紫炎の攻撃力は下がる。」

大將軍 紫炎 攻3700 ↓ 攻2900

秀「だが、ハイランダーの攻撃力は3100！バトルだ！ハイランダーで大將軍 紫炎を攻撃！死兆星斬！」

大將軍 紫炎 攻2900

VS

天刑王 ブラック・ハイランダー 攻3100

秀「このターンで削りきれる！手札から速攻魔法、突進発動！」

突進^{とっしん}

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の攻撃力はエンドフェイズ時まで700ポイントアップする。

天刑王 ブラック・ハイランダー 攻3100 ↓ 攻3800

VS

大將軍 紫炎 攻2900

信 LP400 ↓ LP-500

秀「ふう、なんとか勝てたな。」

信「さすがは親方様、素晴らしいデュエルでござった。」

秀「何言つてんだ、そっちも強かったぜ。」

やけに強いせいで最初乗り気じゃなかったが、途中からテンションが上がっちゃったし。

秀「観客席に行くか。」そう言って、デュエル場から観客席に向かった。

ちなみに、原作通りに十代は万丈目とデュエルし、十代がハネクリボーレベル10で逆転し、フェザーマンでとどめをさした。やっぱり強力だよな、レベル10。後、十代のチートドロー。

第6話 試験は色々面倒だけどさあ、正直言って授業よりは楽だぜ、イヤッホオ

第6話終了です。

手札抹殺で捨てたカードは適当に選びました。すみません。

次回、第7話「肝試し？いや、怖くねーから、マジだからあああ！」
ついにあの人登場！

第7話

肝試し？いや、怖くねーから。マジだからああ。 (前書き)

ものすごく投稿が遅れてすみません。色々あったんですよ。学校行事が。では第7話、スタート！

第7話 肝試し？いや、怖くねーから。マジだからああ。

（秀SIDE）

秀「お前の後ろにだああああああ！」

翔「ギヤアアア！」

俺、十代、翔、隼人、信義の5人しかいないレッド寮の食堂で、翔がものすごい悲鳴を上げた。理由はアレだよ、アレ。怪談話。

翔「怖いッスよ、その話。」

秀「そうか？そんなつもりなかったけどな。」

怖いか？『ごめんね、ジェリー』って話。

翔「その話レベル8ぐらいッスよ。怖すぎるッスよ。レベル下げてほしいッス。引いたカードはレベル4なんスから。」

十「なんかすっげー最初は感動的な話だったな。最後はびっくりしたけどな。」

信「びっくりというレベルでござるか？」

なんだかんだいって笑っている十代にちよつと呆れてる信義。怖がつてるのは翔と悲鳴は上げなかった隼人だ。

秀「まあびっくりし過ぎなんだよ、おめーは。」

そう言つと翔は睨んだ。ちよつと怒つてゐるっぽい。

隼「次は誰なんだな？」

十「じゃあ次は……「何してるのニヤ？」」

翔・十・秀・隼・信「ギヤアアア！」

秀「って大徳寺先生じゃねーか。びつくりしただろうが！背後はねーよ、背後は！」

後ろから脅かして来たのは大徳寺先生だった。

翔「ププ、それにしてもさっきの秀君の顔、面白かったスよ。秀君の方がびつくりしてるツスよ。」

秀「何言つてんだ、びつくりしてる訳ねーじゃん。フリだよフリ、びつくりしたフリだって。」

翔「フーン。」

翔がなんか勝ち誇つた顔をしてきた。ちよつとイラつく。

大「ちよつといいニヤ。なら私も一つ話すニヤ。」

翔「え？」

その後大徳寺先生が原作通り廃寮の話をした。

大「所詮噂だけどニヤー。とにかく早く寝るニヤー。」

大徳寺先生がそう言って食堂から出て行った後、

十「へー、なあ今からその廃寮に行かねーか？」

と十代が提案しやがった。

秀「だが断る。」

十「ええー、何で。行こうぜ、廃寮。」

翔「いいンスよ、アニキ。秀君は『怖い』ンスから。」

秀「ギク！Σ（□）！……………」。

信「親方様？」

秀「な、な、な、何言ってるんだよ。ここに、怖くなんかねーよ。」

隼「足が震えてるんだな。」

秀「ここに、これはアレだよ、アレ、準備体操。」

翔「どんな準備体操スか！」

翔がつっこんできた。

翔「やっぱり行かない方がいいんじゃないんスか？怖いんでしょう？」

秀「いや、行こう。行ってやらー！俺がびびってねーってことを見

せてやるぜ!」

翔「よし、じゃあ行くツスよ。(フフ、計画通りツス!)」

レッド寮から徒歩約10分。全然素敵じゃない物件、廃寮に着いちまった。

秀「来ちまったよ、やべーよ、マジでやべーって。」

翔「秀君、やっぱり怖いん」「行くぞ!何としても行くぞ!」………フフ。」

クソ。翔のヤロー、覚えてやがれ。次にデュエルする時にメタ組んでやる。酸性雨とか酸のラストウィルスとか。

?????「止めときなさい、行くのは。」

背後から声が聞こえた。

秀「ギヤアアアアア!出た〜!」

翔「ビビりすぎッスよ。」

十「あ、明日香か。脅かすなよ。」

秀「¥ ○ ♪ ∞ □ ! !」

翔「いつまでびっくりしてるんスか！」

秀「 ↓ ↑ A B † …… 宇宙天地 与我力量 降伏群
魔 迎來曙光！」

信「しっかりして下され親方様！」

十「お経唱えだしたぞ！」

秀「H A N A S E！」

隼「重傷なんだな。」

秀「はあ、すまねえ。取り乱しちまった。」

十「しかしすごかったな。暴走してたぞ。」

秀「ああ。すまねえ。怪談話がいいが、行くのはな。」

信「そうでござったか。」

明「ところであなた達、ここに何をしに来たの？」

十「ちよつと廃寮探検にな。」

明「なら帰りなさい。聞いたでしょう？行方不明になった生徒もいるのよ。」

十「ここまで来て帰れるか。行くつたら行く。」

明「帰りなさい。」

十「行く！」

明「帰りなさい！」

うわつ、だんだん言い争いになってきた。

????「明日香、無駄よ。諦めなさい。」

明日香の後ろから声がした。

明「!?!?でも。」

見たことない女子生徒がいた。つーか、ここに来てから原作キャラ以外知らない奴ばかりだな。

????「彼らは行きたいと行っているのよ。なら行かせればいい。」

明「でも、彼らを行かせる訳には……」

????「兄の様になると?」

明「!?!?!? もう、好きにしなさい。私は寮に戻るわ。」

そう言つて寮の方へ向かう明日香。

十「なあ、明日香の兄つて?」

????「……………遊城十代ね……。」

十「えつ、ああ。そうだけど。」

????「……………明日香の兄、天上院吹雪はこの廃寮で行方不明になった。」

十「えつ!」

翔「明日香さんのお兄さんが。」

信「行方不明でござるか。」

隼「知らなかったんだな。」

俺は原作を知ってるから驚かない。でも何でかなあ。仲間外れにされた気分だ。

秀「ところで名前、何て言うんだ?」

何か仲間外れになるのも嫌なので話題を変えた。

「?????」城戸 城戸 美雪（きど みゆき）。はじめまして、高橋秀。」

秀「あれ？何で名前知ってんだ？初対面のはずだろ？」

美「同じだからよ。貴方からは、いや、遊城十代。貴方からも不思議な存在、私と同じ力を感じるから。……………その前田隼人からも……………弱いけど。だから名前を覚えてる。」

秀「なあ、力って何のことだよ？」

美「……………いずれ、いや、すぐに分かる。」

秀「俺の質問はスルーかよ、おい。」

十「そんな事より、お前も行かねーか？廃寮探検。」

美「私は止めておくわ。……………もう時間もあまり無いし。」

秀「時間？何のことだ？」

美「何でもないわ。それより明日香の事をよろしく。」

そう言って美雪は小走り気味に去って行った。

十「明日香の事をよろしく？何のことだ？」

秀「うーむ。」

信「どうしたでござる?」

秀「いや、何でもねー。」

この後の事を知ってるみたいなお振り。何者だ?あいつ。

十「よし、じゃあとりあえず入るか。廃寮に。」

秀「……………ゑ?十代、今なんて?」

十「いや、だから入ろうぜ、廃寮に。」

十代の言葉を聞いた俺は一息つき、叫んだ。

秀「M A T T…………」

秀「もうやばいって、ホントマジでヤバいって。あつ、翔先に行ってくれない?ドローパン奢るから。」

なんやかんやで結局入ることとなった俺達『廃寮探検隊』（十代命名）は各自手に持った懐中電灯の明かりを頼りに先に進んでいた。

十「なんかけっこー豪華だなー。なあ、こっちに引っ越さねーか？」

秀「十代、それだけはマジで勘弁してくれよ。ここに引っ越したら夜に眠れねーってレベルじゃねーよ。いつまでもこゆっくり、永遠に眠りなさいのレベルだよ。」

十「ちえ、つまんねーの。」

十代が面白くない顔をしたが、これだけはゆずれねー。

信「しかし、周りの壁に何やら怪しきものばかり刻まれているでござるな。」

秀「ああ。」

壁にはたくさんの文字や絵がびっしりと刻まれていた。恐らく闇のゲームについての物ばかりだろう。

翔「ここで闇のゲームの研究をしてたんすね。」

十「へー、千年アイテムは7つあったのか。ん、なんだこれ？写真？」

そう言っただけで十代は額に飾ってある写真を持ってきた。写真には一人の男子生徒らしき人の写真だった。下の方には10 JOINと書いてある。

秀「こいつは！天上院吹雪！」

十「これが明日香の兄ちゃんか。あれ？秀、知ってんのか？」

秀「え？あ、ああ。そりゃ原……下に10 JOINと書いてあるだろ。天上院と読むんじゃないかなーと思ってな。」

あつぶねー。ついすっかり喋るところだった。

十「へー、すげーな。よく分かったな。」

秀「アハハ。まあな。そんなのどーでもいいからさあ、そろそろ帰らねーか？」

翔「それもそうっすね。もう二時ぐらいっすし。」

十「えー。まだいいじゃないか。もう少し奥に、」

????「キヤアアアアア。」

翔・十・秀・隼・信「!？」

奥から悲鳴が聞こえた。つーかこの声……………

十「今のつて。」

翔「明日香さんの声ッス。」

秀「急ぐぞ!」

俺達は急いで奥へ向かった。

十「ん？このカードは！明日香のカード！」

十代は落ちていたエトワール・サイバーを見せた。確かに使う奴はアカデミアだと明日香しか居ないだろう。

信「つまり明日香殿は。」

翔「この先ッス。」

狭い通路の先に広間があり、黒いコートの一人の男が立っていた。

十「誰だ！お前は。」

「????」フッフ、来たなあ、遊城十代、高橋秀。」

秀「な、その声、まさか。お、お前は！」

十「あいつを知ってんのか！」

秀「わ、」

十「わ？」

秀「若本！」

翔「……………え？秀君？たぶん違うッスよ。」

若（？）「…………いや、その少年の言う通りだあ、私の名は…」

十「若本！明日香をどうした！」

若（？）「いや、だからちよつと待てえ！私の名前はタイタンだあ！若本ではないい！！なんだ横の『若（？）』はあ！」

秀「分かったよ、つたく、…………第六天魔王、信長！」

タ「フハハハア、滅せよお、愚民どもがあ…………つて、違ううう。私はタイタンだああ。」

タイタンは叫んだ。いやーやっぱり若本ボイスは良いわ。

秀「さて、生の若本ボイスも聞けたし、明日香はどこだ。」

タ「フッフ、明日香とかいう小娘はあ、貴様等と呼び寄せる餌にさせてもらったあ。私の後ろを見よお。」

翔「ああ、明日香さんッス。」

タイタンの後ろに棺の様なものがあり、そこに明日香が横たわっていた。

秀「無事なんだろうな。死に至る病だったか。それ使ってねーだろうな、信長！」

タ「信長ではないと言っているうう。私はタイタンだあ！後、ネタを自重しろおお。…………つたく、面倒な仕事を引き受けてしまったあ。」

翔「仕事？何のことスか？」

タ「こちらの話だぁ。それより本題に入ろう。遊城十代、高橋秀。どちらが先に闇に消えるかぁ。相談するがいい。」

タイタンはそう言ってデュエルディスクを構えた。

十「デュエルか！よし、俺が行くぜ！」

秀「十代、悪いが俺が若本とやる。」

タ「だからタイタンだぁ！いいだろう。高橋秀。貴様から葬ってやる。闇のデュエルでなぁ！」

翔「ええ！闇のデュエル！」

十「だが、闇のデュエルを行うためには、千年アイテムが必要の筈、出来るわけがない！」

タ「フハハハア、しかしあるのだよぉ、千年アイテムの一つ、千年パズルを！」

そう言ってタイタンは懷から千年パズル（？）を取り出した。

十「ば、ばかな。」

翔「本物ツス！」

隼「ありえないんだな！」

信「初めて見たでござる。」

それぞれ様々なリアクションを取る十代達。なあ、ノーリアクションの俺って一体。

タ「さあ、始めよう、闇のデュエルをお。」

秀「来い、タイタン！」

「デュエル！」

秀 LP4000

タイタン LP4000

タ「私が先行だあ。私のターン、ドロオオ！」

タイタン 手札5枚↓手札6枚

タ「私は手札から、ジェネラルデーモンの効果発動お。このカードを手札から墓地に送り、デッキからフィールド魔法、万魔殿・悪魔の巣窟 - を手札に加えるう！」

ジェネラルデーモン

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2100 / 守800

このカードを手札から墓地に捨てる。

デッキから「万魔殿・悪魔の巣窟」1枚を手札に加える。

フィールド上に「万魔殿・悪魔の巣窟」が存在しない場合、フィールド上のこのカードを破壊する。

タ「そして先程加えたあ、フィールド魔法、万魔殿・悪魔の巣窟を発動お！」

バンディモニアム

万魔殿・悪魔の巣窟

フィールド魔法

「デーモン」という名のついたモンスターはスタンバイフェイズにライフを払わなくてよい。

戦闘以外で「デーモン」という名のついたモンスターカードが破壊されて墓地へ送られた時、そのカードのレベル未満の「デーモン」という名のついたモンスターカードをデッキから1枚選択して手札に加える事ができる。

周りが何か薄気味悪い感じになった。

タ「さながら、これが地獄の一丁だあ。更に、手札からインフェルノクインデーモンを攻撃表示で召喚だあ。」

王冠を被った悪魔が現れた。

インフェルノクインデーモン

効果モンスター

星4/炎属性/悪魔族/攻 900/守1500

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に500ライフポイントを払う。

このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、

その処理を行う時にサイコロを1回振る。

2・5が出た場合、その効果を無効にし破壊する。

このカードがフィールド上に存在する限り、スタンバイフェイズ毎に「デーモン」という名のついたモンスターカード1体の攻撃力をエンドフェイズまで1000ポイントアップする。

タ「私はターンを終了するう。」

秀 手札5枚 LP4000

場 無し

タイタン 手札4枚 LP4000

場 インフェルノクインデーモン 攻900

フィールド魔法 万魔殿 - 悪魔の巣窟 -

いきなり厄介な万魔殿 - 悪魔の巣窟 - を使いやがって。

秀「俺の、ターン！」

秀 手札5枚↓手札6枚

タ「この瞬間、インフェルノクインデーモンの効果を発動お！スタンバイフェイズ毎に「デーモン」という名のついたモンスターカード1体の攻撃力をエンドフェイズまで1000ポイントアップさせるう。私はインフェルノクインデーモンのお、攻撃力をエンドフェイズまで1000ポイントアップう。」

インフェルノクインデーモン攻900↓攻1900

秀「ちつ、やっぱ面倒だ、デーモンデッキは。だがな、いくら攻撃力が高くて、それを越せばいい。相手フィールド上にのみモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない時、こいつは手札から特殊召喚する事ができる。行け、バイス・ドラゴン。攻撃表示だ！」

定番のゴツイドラゴンが現れた。

バイス・ドラゴン

効果モンスター

星5/闇属性/ドラゴン族/攻2000/守2400

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚したこのカードの元々の攻撃力・守備力は半分になる。

「後、今更だがこの効果で特殊召喚したの元々の攻撃力・守備力は半分になる。」

バイス・ドラゴン攻2000↓攻1000

十「出た、バイス・ドラゴン！」

翔「ホント、よく来るツスね。」

まあ、三積みだしな。

タ「フハーハハハア、馬鹿者めがあ、たかが攻撃力1000のモ

ンスターで何ができるう。」

秀「ふつ、馬鹿者はてめーだよ。こいつは俺のデッキのキーカードだ。こいつには無限の進化の可能性を秘められている。それがたかが攻撃力1000のモンスターでもな。」

十「無限の可能性、シンクロ召喚の事だろ、秀。」

秀「まあそれもだが、今回は違う。俺はバイス・ドラゴンを生け贄に、ストロング・ウィンド・ドラゴンを生け贄召喚！」

バイス・ドラゴンが光の粒子となり、そこから緑色のドラゴンが現れた。

ストロング・ウィンド・ドラゴン

効果モンスター

星6 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2400 / 守1000

このカードは同じ攻撃力を持つモンスターとの戦闘では破壊されない。

ドラゴン族モンスターをリリースしてこのカードのアドバンス召喚に成功した時、このカードの攻撃力はリリースしたドラゴン族モンスター1体の攻撃力の半分の数値分アップする。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値分だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

秀「ストロング・ウィンド・ドラゴンは、ドラゴン族モンスターを生け贄にして召喚した時、このカードの攻撃力は生け贄にしたドラゴン族モンスター1体の攻撃力の半分の数値分アップする。バイス・ドラゴンの攻撃力の半分は1000。よって攻撃力は3400！」

タ「何い！？何だその攻撃力はあ！」

十「すつげー、流石だぜ。」

秀「行くぜバトル！ストロング・ウィンド・ドラゴンでを攻撃！吹き飛ば！ストロング・ハリケーン！」

ストロング・ウィンド・ドラゴンが起こした風が、インフェルノクインデーモンを吹き飛ばした。

ストロング・ウィンド・ドラゴン 攻3400

VS

インフェルノクインデーモン攻1900

タイタン LP4000 ↓ LP2500

タ「ぬううう。」

よし、タイタンのライフを大きく削ってやったぜ。ってあれ？

秀「闇のデュエル何だろう、体とか消えねーのか？」

偽の闇のデュエルって知ってるけどあえてとぼけた。

タ「むっ、……私の左足を持って行くがいい。」

タイタンがパズルを掲げてそう言うと、確かに左足が消えてった。

翔「ああ、左足が消えたツス！」

信「いや、右足でござろう?」

隼「俺もそう見えるんだな。」

十「いや、左足だつて!」

翔「どういう事ツス?」

なんか原作通りに消えてる部分が違つて見えるらしい。

秀「タイタン、消えてる部分が違つてる見えるらしいぞ? 闇のデユエルなのになー、おかしいよなー、おい。」

タ「むう、……どうしたあ、ターンエンドかあ?」

スルーかよ。おい、言葉のキャッチボールしろよ。

秀「カードを二枚伏せてターンエンド!」

秀 手札2枚 LP4000

場 ストロング・ウィンド・ドラゴン 攻3400

タイタン 手札4枚 LP2500

場 フィールド魔法 万魔殿・悪魔の巣窟・

タ「クソお。私は負けるわけにはいかんだあ！」

秀「金の為か？」

タ「！？なぜそれを！」

まあ、クロノスに雇われたの原作で知ってるしな。

秀「んー、アレだ、直感？それにさっき仕事って言ってたし。」

原作とは言えねーし、つじつま合うように適当に言った。

タ「直感とは対したものだあ。その通り、私は依頼を受け、ここに来たあ。しかしそれがどうしたあ！私はこの仕事に全てを掛けているのだあ！負ければ生活費すら厳しいのだあ！だから勝つためには何でもしよう。例え自らの命を捨ててまでもだあ！」

秀「つまんねーな。そんなの。」

タ「何だとお。」

秀「自分の命を捨ててまで金が欲しいのかよ。確かに金がねーと、飯も、服も、新しいパツクも買えねー。でもなあ、闇のデュエルとかハツタリかましてまで、小細工してデュエルに勝つてもつまんねー。デュエルは楽しむもんだ。勝ち負けやそんなもん気にするもんじゃねーんだよ。だからそんなことを気にしてるてめーは俺には勝てねーんだよ。絶対にな。」

タイタンは黙り込んだ。結構タイタン自身、気にしてたんだろう。

タ「……………黙れ、黙れえええ！貴様などにわかるかあ！デュエルを続けるぞお！どるオオオ！」

タイタン 手札4枚↓手札5枚

タ「私は手札から永続魔法フィールドバリアを発動お。」

フィールドバリア

永続魔法

フィールド魔法カードを破壊する事はできない。また、フィールド魔法カードを発動する事はできない。「フィールドバリア」は、自分フィールド上に1枚しか表側表示で存在できない。

秀「さっきのターン使わなかったって事はドロカードか。」

タ「その通りだあ。更に手札から魔法カード大嵐を発動お！」

おおあらし

大嵐

通常魔法（制限カード）フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

破壊されたのは奈落の落とし穴と……………またミラーフォース。またか！

タ「フィールドバリアの効果でパンデモニウムは破壊されない。そして私はデスルークデーモンを攻撃表示で召喚だあ！」

西洋の城壁みたいな悪魔が現れた。

デスルークデーモン

効果モンスター

星3 / 光属性 / 悪魔族 / 攻1100 / 守1800

このカードのコントロールは自分のスタンバイフェイズ毎に50ライフポイントを払う。このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、その処理を行う時にサイコロを1回振る。3が出た場合、その効果を無効にし破壊する。

自分フィールド上の「ジェノサイドキングデーモン」が破壊され墓地に送られた時、このカードを手札から墓地に送る事で、その「ジェノサイドキングデーモン」1体を特殊召喚する。

翔「何で攻撃力の負けているデスルークデーモンを攻撃表示で召喚したんだろう？」

秀「ま、まさか！」

奴のフィールド上にデスルーク『デーモン』……発動条件は満たされている。

タ「私は手札から装備魔法、墮落を発動お！貴様のストロング・ウインド・ドラゴンに装備するう。」

フォーリン・ダウン
墮落

装備魔法

自分フィールド上に「デーモン」という名のついたカードが存在しなければこのカードを破壊する。

このカードを装備した相手モンスターのコントロールを得る。

相手のスタンバイフェイズ毎に、自分は800ポイントダメージを受ける。

ストロング・ウインド・ドラゴンの体が少し黒くなり、タイタンの

フィールドに移った。

秀「や、やべえ。」

タ「ハハハア。バトル！ストロング・ウィンド・ドラゴンでダイレクトアタックう！」

秀「させるか！手札から、バトルフェーダーの効果発動！バトルフェーダーを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを強制終了させる。」

バトルフェーダー

効果モンスター

星1/闇属性/悪魔族/攻 0/守 0

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

このカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。この効果で特殊召喚したこのカードは、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

バトルフェーダーが鐘を鳴らすと、ストロング・ウィンド・ドラゴンの攻撃を無力化した。

タ「ちい、邪魔しおつて、このままターンエンドお。」

秀 手札1枚 LP4000

場 バトルフェーダー守0

タイタン 手札1枚 LP2500

場 ストロング・ウィンド・ドラゴン 攻3400

デスルークデーモン 攻1100

装備魔法 墮落（ストロング・ウィンド・ドラゴンに装備）

フィールド魔法 万魔殿 - 悪魔の巣窟 -

ちい、ストロング・ウィンド・ドラゴンが奪われて状況は最悪だ。
ここで何とかしねーと。

秀「俺の、ターン!!」

秀 手札1枚↓手札2枚

タ「このスタンバイフェイズに、私は墮落の効果では800ポイントダメージを受ける。」

タイタン LP2500↓LP1700

タイタンのライフが減るのはいいが、

秀「くっ、モンスターをセットしてターンエンド。」

いいカードは引けなかった。

秀 手札1枚 LP4000

場 バトルフェーダー守0

裏守備モンスター×1

タイタン 手札1枚 LP2500

場 ストロング・ウィンド・ドラゴン 攻3400

デスルークデーモン 攻1100

装備魔法 墮落（ストロング・ウィンド・ドラゴンに装備）

フィールド魔法 万魔殿・悪魔の巣窟・

タ「フム、守備モンスターしか並べられないのかぁ。私のターン、ドロオオ！」

タイタン 手札1枚↓手札2枚

タ「私は手札からジェノサイドキングデーモンを攻撃表示で召喚！」

王冠を被り、大剣をもつ、王様みたいな悪魔が出てきた。

ジェノサイドキングデーモン

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2000 / 守1500

自分フィールド上に「デーモン」という名のついた

モンスターカードが存在しなければこのカードは召喚・反転召喚できない。

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に800ライフポイントを払う。

このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、その処理を行う時にサイコロを1回振る。

2・5が出た場合、その効果を無効にし破壊する。このカードが戦闘で破壊した効果モンスターの効果は無効化される。

「バトルだあ！デスルークデーモンでバトルフェーダーに攻撃い
！」

デスルークデーモンはゆっくりと動き、バトルフェーダーをペシャ
ンコにした。

デスルークデーモン 攻1100

VS

バトルフェーダー 守0

「まだだあ。ストロング・ウィンド・ドラゴンで裏守備モンス
ターを攻撃い！」

「うー、裏守備モンスターはクリッターだ！」

クリッター

効果モンスター（制限カード）

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1000 / 守600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキか
ら攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

ストロング・ウィンド・ドラゴンの一撃で額に穴が開くクリッター。

ストロング・ウィンド・ドラゴン 攻3400

V S

クリッター 守600

秀 LP4000 ↓ LP1200

秀「くそ、貫通ダメージが。」

タイタンの場のモンスターの攻撃により俺のモンスターは瞬殺される。く、このままじゃ……。

タ「さあ、千年パズルよお、奴の体を奪え、そして奴の魂を闇に引きずり込むのだあ。」

タイタンが千年パズルを掲げ、なにやら言い始めた。

秀「か、体が!?!」

俺の体のほとんどが見えなくなった。2800のダメージにしては消えてる場所多いだろ!?!つか、それよりも、………何だ、この、………脱力感………は。

タ「ククク、そのまま墜ちてしまえ、永遠の闇にい。」

くっ………そ………駄目だ。………意識………が。

「……………しつ……かり、……せえ。」

「ん？……何……だ……？今の………声は？幻聴？」

「……………？」「起きてくだせえ、秀の旦那。」

「幻聴じゃ……………ない？」

「秀「！」」

「何だ？デッキの一番上のカードが光ってる。こいつは。俺はそのカードをめくった。」

「秀「ダーク、リゾネーター？」」

「光ってるカードはダーク・リゾネーターのカード。」

「ダ「やっとあつしの声が聞こえる様になったようですね、旦那。」

「目の前に見たことのあるモンスターが現れた。まさか、カードの精霊？美雪って奴が言っていた力って精霊の事か？」

「ダ「寝てる場合じゃないですぜ、旦那。まだデュエルの途中です。」

早く起きてくだせえよ。今、あつしが起こしますんで。」

ダーク・リゾネーターがそう言うと、両手の音叉をおもつきり叩き、音を鳴らした。！？…なんだ。意識がはつきりとしてくる……。

秀「ハッ！」

目を開けた時、あの脱力感は消えていた。立てる。立てるぞ！俺はゆっくりと立ち上がった。

タ「なんだとお！バカなあ！立ち上がったとお！？」

ものすごく驚いているタイタン。信じられないような目をしている。

十「秀！大丈夫か！」

秀「ああ。何とかな。」

翔「よかったッス！」

信「一時はどうなるかと思いましたぞ。」

心配してくれる十代達。そんなに心配しなくてもいいのにな。

ダ『旦那。そう感傷に浸っている場合じゃないですけど、次のドローにかかってんですから。』

秀「ハハ、すまねーな。分かってる。」

翔「秀君？」

信「一人で何しゃべってるでござるか？」

秀「ええっ！あ、ああ。大丈夫だ。」

あぶねー、後少しで危ない奴だと勘違いされる所だったぜ。

タ「な、なぜだあ。なぜ立ち上がってくるう。」

秀「へっ、デュエルの途中に寝ていらんねーよ、寝るとしてもケリつけてからだ。それに勝てそうなデュエルなら尚更だ。」

タ「ブ、ブワツハハハア。バカを言うなあ！貴様の場にはモンスターは無い、そして私の場には攻撃力3400のお、ストロング・ウィンド・ドラゴンがいるう。逆転など不可能だあ。」

確かに状況は最悪。だが、

秀「まず、破壊されたクリッターの効果だ！デッキからチューナー・モンスター、ダーク・スプロケッターを手札に！」

ダーク・スプロケッター

チューナー（効果モンスター）

星1/闇属性/悪魔族/攻 400/守 0

このカードが闇属性のシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、フィールド上に表側表示で存在する魔法または罠カード1枚を破壊する事ができる。

タ「今更何をしようが無駄なことだ。私にはジェノサイドキングデーモンの攻撃が残っている。これでとどめだ、ジェノサイドキングデーモンでダイレクトアタックう！炸裂う。五臓六腑う！」

ジェノサイドキングデーモンが腹をパカッと開き、そこから虫の大群が出てきた。いや、剣使えよ。

秀「なんの！手札から二体目のバトルフェーダーの効果だ！」

タ「またそいつかあ、私はカードを一枚伏せてターンエンドお。」

秀 手札1枚 ダーク・スプロケッター LP1200

場 バトルフェーダー 守0

タイタン 手札0枚 LP1700

場 ストロング・ウィンド・ドラゴン 攻3400

デスルークデーモン 攻1100

ジェノサイドキングデーモン 攻2000

装備魔法 墮落（ストロング・ウィンド・ドラゴンに装備）

伏せカード一枚

フィールド魔法 万魔殿・悪魔の巣窟・

タ「（フッフ、チューナーモンスターとは何か知らないがあ、そんなもの関係ない。私の伏せたカードはあ、罠カード、ヘイト・バスター。）」

ヘイト・バスター

通常罠

自分フィールド上に表側表示で存在する悪魔族モンスターが攻撃対象に選択された時に発動する事ができる。

相手の攻撃モンスター1体と、攻撃対象となった自分モンスター1体を破壊し、破壊した相手モンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

タ（例えば上級モンスターが来ても私の勝利に揺るぎはない。）

タ「フッフッフ、ブワッハハハア！」

秀「何高笑いしてんだ。まだデュエルは終了してないぜ！」

タ「何を言う、貴様のエースモンスターを奪ってやったのだぞお？貴様に勝ち目は、」

秀「何勘違いしてるんだ。」

タ「何い？」

秀「そいつが俺のデッキのエースモンスター？確かにストロング・ウィンド・ドラゴンは強いが、エースじゃあねーよ。」

タ「バカなあ、攻撃力3400のモンスターがエースでないだとお！」

秀「次のドロ―であのカードを引ければ、見せてやるよ、俺のエースを！さてと、俺の、ターン……！」

来やがれ、デステイニー、ドロ―だ！

秀 手札1枚↓手札2枚

タイタン LP1700↓LP900（墮落の効果）

秀「よし、来たぜ！逆転のカードが！俺は引いたカード、精神操作を発動！俺のストロング・ウィンド・ドラゴンを返してもらっぜ！」
再び俺のフィールドに舞い戻るストロング・ウィンド・ドラゴン。

せいしんそうさ
精神操作通常魔法（制限カード）

このターンのエンドフェイズ時まで、
相手フィールド上に存在するモンスター1体のコントロールを得る。
このモンスターは攻撃宣言をする事ができず、リリースする事もできない。

タ「何かと思えばあ、ただのデミリットカードではないかあ。攻撃する事ができずう、生贄にする事もできないストロング・ウィンド・ドラゴンでえ、何ができるう。」

嘲り笑うタイタン。今に見てろ。

秀「さらに手札からチューナーモンスター、ダーク・スプロケツターを守備表示で召喚！」

コンセント？それとも電球みたいなモンスターが現れた。これで準

備完了！

タ「自棄になったかあ。雑魚を並べた所で何ができるう。」

秀「へっ、なら行くぞ、タイタン。てめーの雑魚と言ったモンスターがどれだけ強えーかをな。レベル6、ストロング・ウインド・ドラゴンと、レベル1、バトルフェーダーに、レベル1のチューナーモンスター、ダーク・スプロケッターをチューニング！」

チューナー以外のモンスター達を、ダーク・スプロケッターのカードでぐるぐる巻きにし、光り出す。

6 + 1 + 1 = 8

秀「紅蓮の炎 今ここに列を成す。

天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！燃え上がる魂！レッド・デーモンズ・ドラゴン！！」

レッド・デーモンズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2000

チューナー + チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを全て破壊する。

このカードが自分のエンドフェイズ時に表側表示で存在する場合、このターン攻撃宣言をしていない自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

十「きたー、秀のエースモンスター、レッド・デーモンズ・ドラゴ

ン！」

タ「なんだそれはあ！シンクロ召喚とは一体い。」

焦ってるタイタン。まあ、そりゃあ焦るわ。

秀「さらに、シンクロ召喚に使われたダーク・スプロケッターの効果だ！こいつは闇属性のシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、フィールド上に表側表示で存在する魔法、罠カード1枚を破壊する事ができる。俺はフィールド魔法、万魔殿 - 悪魔の巣窟 - を破壊！」

砕け散る万魔殿。

秀「さて、バトル！………と言いたいが、さっき高笑いしたってことはその伏せたカードはたぶん攻撃誘発型カード。攻撃しないぜ。このままターンエンド。」

秀 手札0枚 LP1200

場 レッド・デモンズ・ドラゴン 攻3000

タイタン 手札0枚 LP900

場 デスルークデーモン 攻1100

ジエノサイドキングデーモン 攻2000

伏せカード一枚 ヘイト・バスター

タ「ぬ、ぬううう。」

秀「どうしたタイタン。お前のターンだ。」

ドロローするのをためらうタイタン。決して俺の場にレッド・デーモンズ・ドラゴンがいるからではない。

翔「ねえ、なんでタイタンはドロローしないんす？」

信「引きたくても引けないんでござるよ。」

翔「？どういうことッス？」

十「デーモンデッキには自分のスタンバイフェイズ毎にライフコストを払う効果があるんだ。万魔殿で払わなくても良かったけど、万魔殿が無い今、タイタンのライフじゃコストを払えずに0になっちゃう。」

翔「そっか。フィールド魔法が無くなって払えないからドロロー出来ないんッスね。」

隼「デーモンデッキ、最大の弱点なんだな。」

解説ありがとう十代。でもなんでデーモンの効果は知ってんだ？そんなキャラだったか？お前。

タ「ぐぬぬ。」

秀「タイタン、お前の負けだ。ライフコストの払えないからな。」

タ「…………私の負けだ。」

そう言ってタイタンはデッキの一番上に手を置こうとした。

秀「待った!」

異議あり!……………じゃなくて。

秀「サレンダーは駄目だぜ、タイタン。負けが決まっけていてもデュエリストなら最後までな。」

タ「高橋秀。……………フ、そうだなあ、デュエリストとしてえ、サレンダーは駄目だなあ。……………私のターン、ドロオオ!」

タイタン 手札0枚↓手札1枚

タ「私はあ、このスタンバイフェイズ、私はデスルークデーモンとジエノサイドキングデーモンの効果でえ、ライフコスト、1300を払う。」

タイタン LP900↓LP-400

タ「フウ、依頼は失敗かあ。これで報酬は貰えずじまいかあ。」

どこか寂しげなタイタン。

秀「なあに、大丈夫だって。新しい仕事、探せばいいじゃねーか。」

十「そうだぜ、それにタイタン。デュエルすっげえ強いじゃん。そうだ!プロデュエリストになればいいじゃねーか。」

翔「アニキ、それはいい考えッス！」

いや、確かにそれはいいけどさ、プロになるのは大変だぞ。

タ「そうか、よし。闇のデュエリストは今日限りだあ。ありがとう、遊城十代。私はプロを目指すう！」

秀「まあ、ガンバレ、応援すつから。（なれるかわかんねーけど。）」

タ「礼を言う、高橋秀。貴様のおかげでえ、目が覚めたよあ。」

秀「そんな事いって。それより早く……」

ゴゴゴゴゴ……

十「何の音だ？」

秀「マズい、逃げるぞ！」

翔「逃げるって？」

信「何のことでござるか？」

秀「早く！もたもたしてつと……！？」

広場の中心からどす黒い闇があふれ出した。

翔「なんスカ！あれ！」

十「なんかヤバそうだ！急ぐぞ！」

俺達は逃げようとした。しかし、

十「あつ、明日香が！」

翔「まだあそこッス！」

なんて事だ！人質にされていた明日香を棺の中に忘れていた。

信「拙者が！」

秀「！？信義！無茶だ！」

信「大丈夫でござるよ。無事に明日香殿を助けに行くでござる。」

そう言って信義は明日香の方へ走っていった。

信「よっ、はっ、何の！」

迫ってくる闇をひらりひらりと交わし、明日香を背負って来た。

秀「よし、全員無事だな！脱出するぞ！」

俺達は廃寮の中を迫ってくる闇をよけながら走った。

秀「ぜえーはあー、ぜえーはあー。何とか逃げれたな。全員、大丈夫か？」

くそ、この世界に来てから走ってばかりだ。

十「ああ。全員無事だ。」

廃寮から少し離れた森の中。空は少し明るくなってきたみたいだ。

翔「それにしてもあれ、何だったんスかね？」

息切れ気味の翔が聞いてきた。

秀「さあな。何かは知らねー。でも、飲み込まれたら多分行方不明者の仲間入り決定だな。」

翔「そ、そんな。でも助かって良かったッス。」

タ「それでは私は去ろう。その小娘もそろそろ起きるハズだあ。すまないと言っておいてくれえ。では、さらばだあ。」

港の方へ歩いていくタイタン。ガンバレ、タイタン。

明「ん、こっは？」

タイタンが去った後しばらくして、明日香は目を覚ました。

十「おっ、起きたか、明日香。」

明「十代？何であなたが？……そうだわ！私を襲った男は？」

秀「行っちゃったよ。タイタンなら。すまないってな。そうだ。十代、あれ出せあれ。写真。」

十「ああ。これ廃寮で見つけたんだ。明日香の兄ちゃんの写真だろ？」

十代は明日香に吹雪の写真を渡した。

明「これは！確かに兄さんの写真よ。でもあなた兄さんの顔知ってたの？」

十「いや、これが明日香の兄ちゃんの写真だって言ったのは秀だぜ。」

明「あなたが。……ありがとう、秀。兄さんの写真を見つけてくれて。」

秀「勘違いすんな。十代が見つけて、俺はサインに気づいただけだ。礼なら十代に言ってくれ。つかさあ、十代。空がものすごく明るくなってきたんだけど。」

十「やっべー、急ぐぞみんな！」

翔「待ってよアニキ〜！」

隼「走ってばかりで疲れたんだな。」

秀「十代足早っ！」

信「親方様。急ぎまするぞ！」

明「……ふふ、面白い奴。」

一人残された明日香は呟いた。

第7話 肝試し？いや、怖くねーから。マジだからあああ。（後書き）

第7話終了です。いやー、また新キャラ出たし、どうしよう。ホント。

次回、第8話「罰を受けて喜ぶ人って正直見たことがない。つか見たくない。」

次回もよろしく！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1363y/>

遊戯王GX～紅蓮の魂～

2011年12月7日13時48分発行